

高石市まち・ひと・しごと創生総合戦略



第2版

目次



第1章 基本方針	2
1-1 まち・ひと・しごと創生総合戦略とは	3
1-2 目的・方針	4
1-3 全体像	6
1-4 運用	8
1-5 期間	8
第2章 基本目標	9
基本目標(1) 子どもを産み育てやすい環境を整える	10
(1)-① 現状	10
(1)-② 方針	12
(1)-③ 数値目標	14
(1)-④ 主な施策	15
基本目標(2) 働きやすい環境を整える	20
(2)-① 現状	20
(2)-② 方針	23
(2)-③ 数値目標	26
(2)-④ 主な施策	27
基本目標(3) いつまでも健幸にすごせる環境を整える	32
【健幸・地域づくり】	32
(3)-① 現状	32
(3)-② 方針	37
(3)-③ 数値目標	41
(3)-④ 主な施策	42
【地域包括ケア】	45
(3)-① 現状	45
(3)-② 方針	47
(3)-③ 数値目標	50
(3)-④ 主な施策	51
基本目標(4) 住みたくなる環境を整える	54
(4)-① 現状	54
(4)-② 方針	61
(4)-③ 数値目標	66
(4)-④ 主な施策	67

第1章 基本方針



第1章 基本方針



1-1 まち・ひと・しごと創生総合戦略とは

○ 我が国における急速な少子高齢化の進展に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、地域で住みよい環境を確保し、将来活力ある日本社会を維持するため、「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、平成26年12月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が決定されました。総合戦略における政策の基本目標は次のとおりです。

国の 基本目標

I 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

II 地方への新しい人の流れをつくる

III 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

IV 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

第1章 基本方針



1-2 目的・方針

【高石市人口ビジョンの内容】

本市の状況

- 出生数が減少
- 高齢者が急激に増加
- 20歳代・30歳代の転出超過

方向性

- 働きながらも子育てができる環境を整えるとともに、子どもを産み育てやすい環境づくりを進める。
- いつまでも健幸にすごし、支え合いのできる地域づくりや安全・安心なまちづくりを進める。
- 子育て世代や同居近居を望む高齢世代に向けて、文教都市を始めとした魅力のPRや転入のきっかけづくりを進める。

方向性の考え方

急速な高齢化を見据えて、高齢者が社会の支え手として活躍し、いつまでも健幸にすごしていくための地域づくりや安全・安心なまちづくりが必要です。また、子育て世代が安心して子どもを産み育てるためには、就業により安定した収入を確保し、働きながらも子育てができる環境を整えることが必要です。さらに、大阪中心部へのアクセスがよく、利便性が高いまちであることに加えて、子育てしやすい環境が整った、文教都市として質の高い保育や教育が受けられるまちであることを子育て世代を中心にPRしていくことが必要です。併せて、高齢者にとって孫の世話をすることが生きがいになり、働く親にとって子育ての負担軽減になるといった相互に支えあう環境づくりを進めるため、「孫と一緒に住みたい」といった子育て世代と同居近居を望む高齢世代にとっても健幸のまちづくりなど、支援を行うことが必要です。

第1章 基本方針



1-2 目的・方針

【目的・方針】

- 今後何も対策を講じない場合、高石市においても、平成52年には人口が46,686人（国立社会保障・人口問題研究所推計より）まで減少する可能性が示されています。この場合、急激な少子高齢化により、高齢世帯の支え手が不足し、また、生産年齢人口の不足により産業の衰退の可能性が高まります。
- 高石市人口ビジョンでは、人口動向等の分析を行うとともに、市内在住者、転出者、転入者を対象としたアンケート調査を行い、長期的な視野に立って、本市の状況と目指すべき将来の方向性を整理しました。
- 高石市総合戦略では、総合計画を始めとして、住生活基本計画や子ども・子育て支援事業計画など既存の計画を踏まえつつ、高石市人口ビジョンで明らかになった本市の状況や目指すべき将来の方向性に沿って、人口減少に歯止めをかけるとともに、活発な産業をもち、住みやすいベッドタウンとしての特性をもった、活力あるまち「たかいし」を発展させることを目的として、4つの基本目標を設定しました。
- 総合戦略の4つの基本目標に基づく施策では、子育て世代と高齢世代のそれぞれに向けた施策を打ち出すとともに、二・三世代同居近居支援施策をさらに充実させるなど、世代間が相互に支えあう環境づくりを進め、活力あるまちを発展させていきます。
- また、高石市で生まれ育ち、これまでの高石の発展を支えていただいた方が、充実した生活を送ることはもちろんのこと、若年世代から高齢世代まで、どのライフステージでも高石市に転入した方が充実した生活を送ることができるようなまちを目指します。

第1章 基本方針



1-3 全体像

高石市人口ビジョンの方向性

働きながらも子育てができる環境を整えるとともに、子どもを産み育てやすい環境づくりを進める。

いつまでも健幸にすごし、支え合いのできる地域づくりや安全・安心なまちづくりを進める。

子育て世代や同居近居を望む高齢世代に向けて、文教都市を始めとした魅力のPRや転入のきっかけづくりを進める。

高石市総合戦略の基本目標

1. 子どもを産み育てやすい環境を整える

2. 働きやすい環境を整える

3. いつまでも健幸にすごせる環境を整える

4. 住みたくなる環境を整える

国の基本目標

I. 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする

II. 地方への新しい人の流れをつくる

III. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

IV. 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

第1章 基本方針



1-3 全体像

高石市総合戦略の基本目標

1. 子どもを産み育てやすい環境を整える

【数値目標】
出生数
20歳から39歳までの転出者数

2. 働きやすい環境を整える

【数値目標】
市内就業者数
市内企業従業者数

3. いつまでも健幸にすごせる環境を整える

【数値目標】
健康寿命
医療・介護連携による連携数

4. 住みたくなる環境を整える

【数値目標】
20歳から39歳までの転入者数
60歳以上の転入者数

高石市総合戦略の主な施策

○子育て世代ウェルカムステーションの整備 ○多子世帯支援 ○妊産婦検診支援の拡充
○不妊治療に関する支援 ○子育て包括支援センターの創設による出産・子育ての切れ目ない支援 ○結婚への意識向上 ○駅前保育ステーションの整備 ○放課後児童クラブ（あおぞら児童会）の時間延長 ○病児保育サービスの整備

（関連施策） ○子育て世帯への住宅支援

○専門性を身につけるための資格取得支援 ○市内企業と就職希望者のマッチング支援 ○企業立地等促進条例の充実 ○創業支援 ○健康経営の促進 ○人材バンクの創設

（関連施策） ○駅前保育ステーションの整備 ○放課後児童クラブの時間延長 ○病児保育サービスの整備 ○二・三代同居近居支援 ○市内企業従業者への住宅支援

○健幸づくり事業の充実 ○総合型スポーツクラブの創設 ○高齢者も暮らしやすいまちづくりの推進 ○在宅医療介護体制の整備
○コミュニティカフェの整備

（関連施策） ○人材バンクの創設 ○創業支援 ○健康経営の促進 ○二・三代同居近居支援 ○教育機関との連携

○教育のICT化の推進 ○少人数教育の推進 ○英語教育の推進 ○教育機関との連携
○地域活性化ブランド戦略による魅力の発信・発掘の強化 ○関西国際空港を拠点とした広域的なPRの取組みの推進 ○旧市民会館・図書館の活用 ○空き家バンク制度の利用促進 ○二・三代同居近居支援 ○子育て世帯への住宅支援 ○市内企業従業者への住宅支援 ○安全・安心なまちづくりの推進

（関連施策） ○子育て世代ウェルカムステーションの整備

第1章 基本方針



1－4 運用

毎年度、PDCAサイクルによる施策等の検証を行い、行政計画審議会に報告し、意見をいただくこととします。また、時点修正など必要に応じて総合戦略を見直します。

1－5 期間

計画期間は平成27年度から平成31年度までの5年間とします。

第2章 基本目標



第2章 基本目標



基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える ― ①現状 ―

- 出産・子育ての中心となる20歳代・30歳代が多数転出しており、転出先としては、大阪市や堺市への転出が多くなっています。

高石市

	人口	転出数	転入数	純移動数	転出数÷人口	転入数÷人口	純移動数÷人口
0～9歳	4,967	286	206	▲80	5.8%	4.1%	▲1.6%
10歳～19歳	6,258	163	135	▲28	2.6%	2.2%	▲0.4%
20歳～29歳	5,767	695	620	▲75	12.1%	10.8%	▲1.3%
30歳～39歳	6,972	527	431	▲96	7.6%	6.2%	▲1.4%
40歳～49歳	9,150	306	233	▲73	3.3%	2.5%	▲0.8%
50歳～59歳	6,716	134	111	▲23	2.0%	1.7%	▲0.3%
60歳以上	18,603	262	164	▲98	1.4%	0.9%	▲0.5%

	男性人口	男性の転出数	男性の転入数	男性の純移動数	転出数÷人口	転入数÷人口	純移動数÷人口
0～9歳	2,567	128	104	▲24	5.0%	4.1%	▲0.9%
10歳～19歳	3,161	84	79	▲5	2.7%	2.5%	▲0.2%
20歳～29歳	3,033	376	321	▲55	12.4%	10.6%	▲1.8%
30歳～39歳	3,469	296	228	▲68	8.5%	6.6%	▲2.0%
40歳～49歳	4,490	156	127	▲29	3.5%	2.8%	▲0.6%
50歳～59歳	3,268	68	67	▲1	2.1%	2.1%	▲0.0%
60歳以上	8,103	111	77	▲34	1.4%	1.0%	▲0.4%

	女性人口	女性の転出数	女性の転入数	女性の純移動数	転出数÷人口	転入数÷人口	純移動数÷人口
0～9歳	2,400	158	102	▲56	6.6%	4.3%	▲2.3%
10歳～19歳	3,097	79	56	▲23	2.6%	1.8%	▲0.7%
20歳～29歳	2,734	319	299	▲20	11.7%	10.9%	▲0.7%
30歳～39歳	3,503	231	203	▲28	6.6%	5.8%	▲0.8%
40歳～49歳	4,660	150	106	▲44	3.2%	2.3%	▲0.9%
50歳～59歳	3,448	66	44	▲22	1.9%	1.3%	▲0.6%
60歳以上	10,500	151	87	▲64	1.4%	0.8%	▲0.6%

大阪府

	人口	転出数	転入数	純移動数	転出数÷人口	転入数÷人口	純移動数÷人口
0～9歳	747,571	35,304	32,315	▲2,989	4.7%	4.3%	▲0.4%
10歳～19歳	839,835	18,712	21,458	2,746	2.2%	2.6%	0.3%
20歳～29歳	956,168	114,949	120,798	5,849	12.0%	12.6%	0.6%
30歳～39歳	1,203,468	89,304	85,453	▲3,851	7.4%	7.1%	▲0.3%
40歳～49歳	1,370,992	43,321	43,080	▲241	3.2%	3.1%	▲0.0%
50歳～59歳	992,078	21,425	21,385	▲40	2.2%	2.2%	▲0.0%
60歳以上	2,768,555	37,042	35,213	▲1,829	1.3%	1.3%	▲0.1%

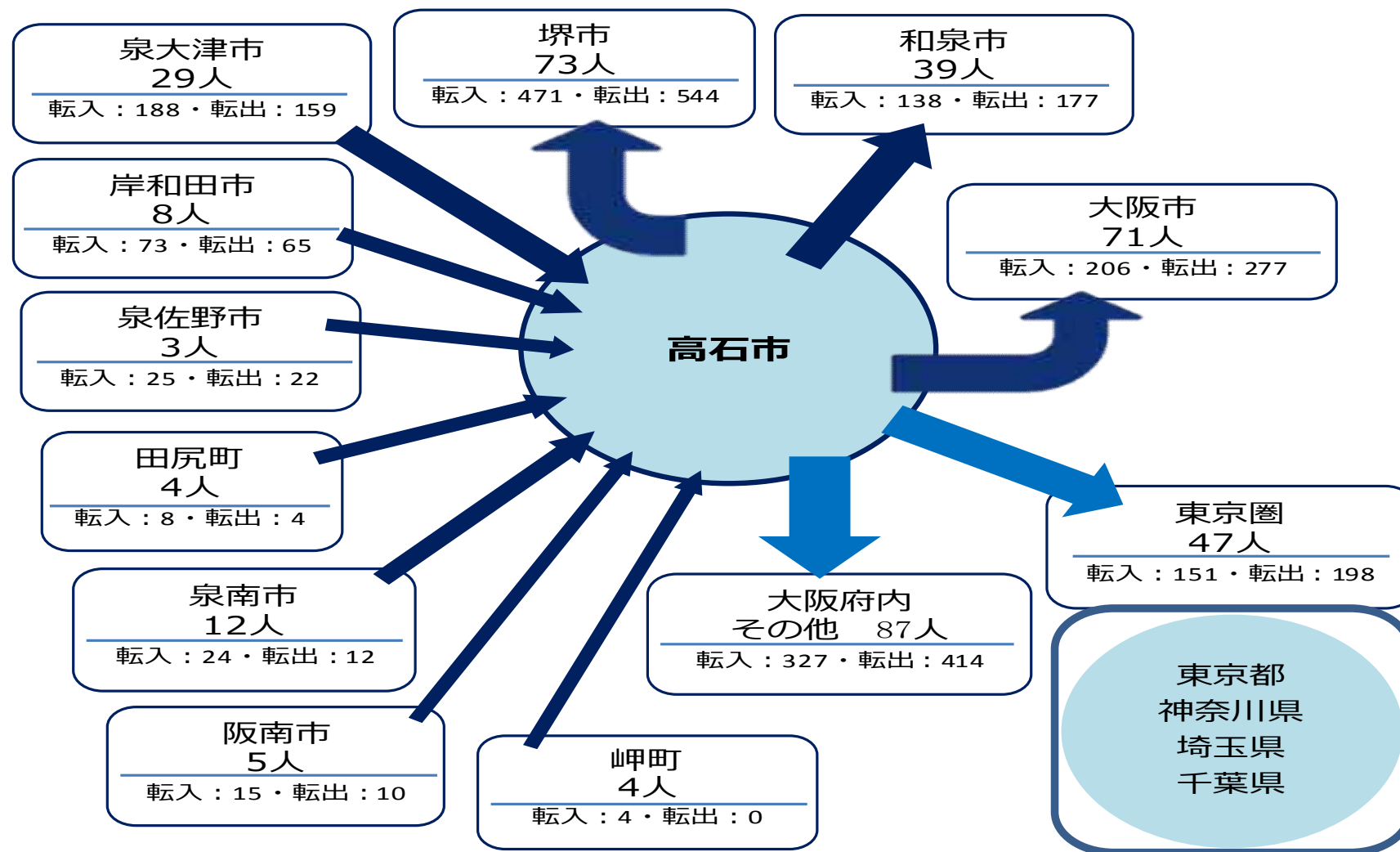
	男性人口	男性の転出数	男性の転入数	男性の純移動数	転出数÷人口	転入数÷人口	純移動数÷人口
0～9歳	382,845	17,942	16,329	▲1,613	4.7%	4.3%	▲0.4%
10歳～19歳	429,764	9,914	11,054	1,140	2.3%	2.6%	0.3%
20歳～29歳	478,848	59,799	60,849	1,050	12.5%	12.7%	0.2%
30歳～39歳	598,562	47,338	45,248	▲2,090	7.9%	7.6%	▲0.3%
40歳～49歳	684,510	25,344	25,080	▲264	3.7%	3.7%	▲0.0%
50歳～59歳	492,642	12,514	12,582	68	2.5%	2.6%	0.0%
60歳以上	1,234,965	16,905	15,973	▲932	1.4%	1.3%	▲0.1%

	女性人口	女性の転出数	女性の転入数	女性の純移動数	転出数÷人口	転入数÷人口	純移動数÷人口
0～9歳	364,726	17,362	15,986	▲1,376	4.8%	4.4%	▲0.4%
10歳～19歳	410,071	8,798	10,404	1,606	2.1%	2.5%	0.4%
20歳～29歳	477,320	55,150	59,949	4,799	11.6%	12.6%	1.0%
30歳～39歳	604,906	41,966	40,205	▲1,761	6.9%	6.6%	▲0.3%
40歳～49歳	686,482	17,977	18,000	23	2.6%	2.6%	0.0%
50歳～59歳	499,436	8,911	8,803	▲108	1.8%	1.8%	▲0.0%
60歳以上	1,533,590	20,137	19,240	▲897	1.3%	1.3%	▲0.1%

第2章 基本目標



基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える － ①現状 －



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（平成25年）

第2章 基本目標

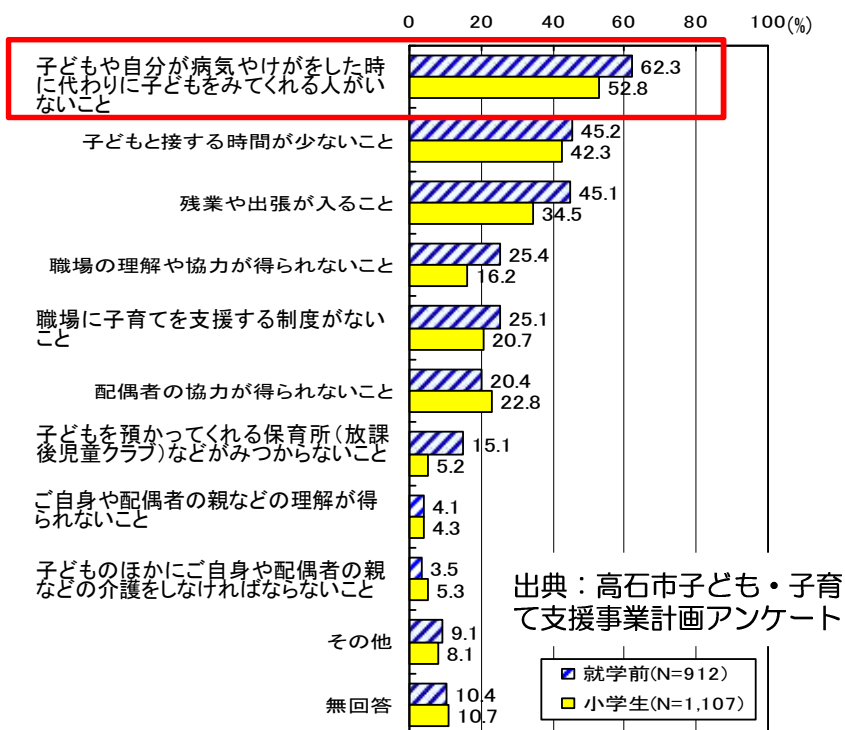


基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える ― ②方針 ―

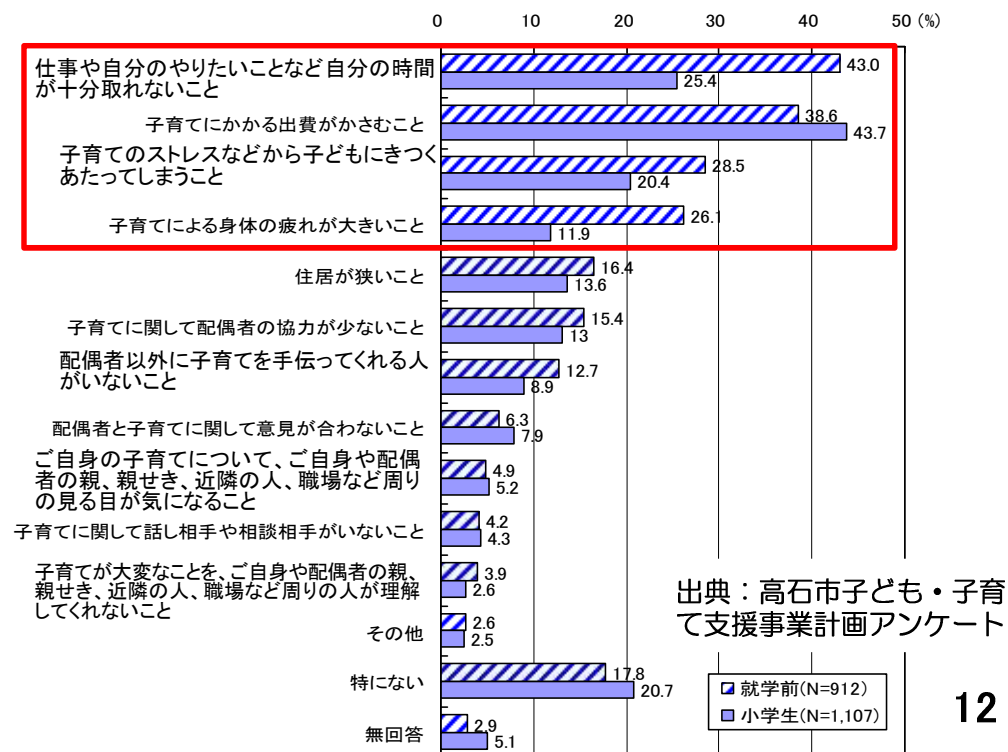
○ 出産・子育ての多様なニーズに対応する

保育サービスの量的な確保に加え、駅前保育ステーションなど特に働きながら子育てをする親が子どもを預けやすい環境の整備や、学童保育の充実、病児保育サービスの確保など、保育の多様なニーズを満たすための支援を整備していきます。また、産前・産後の負担を軽減し、安心して出産できるための支援を行います。

仕事と子育てを両立する上で大変だと思うこと



子育ての悩みや気になること

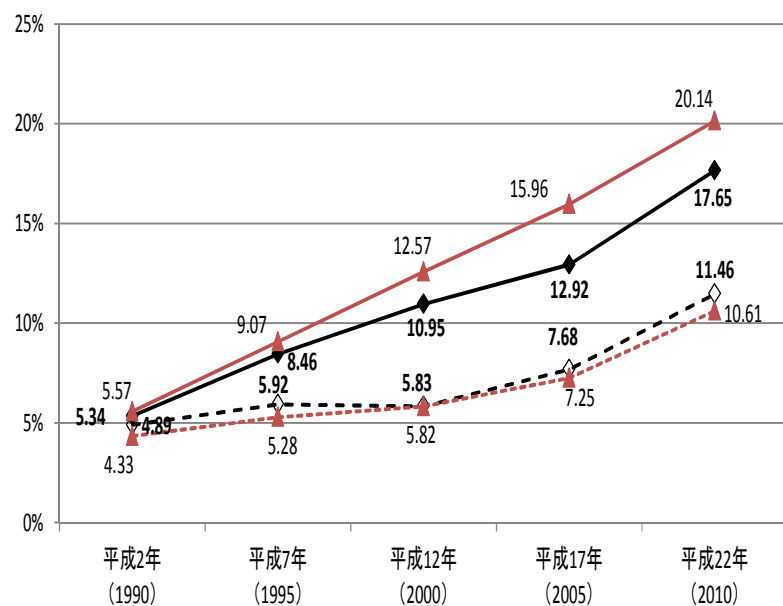


第2章 基本目標



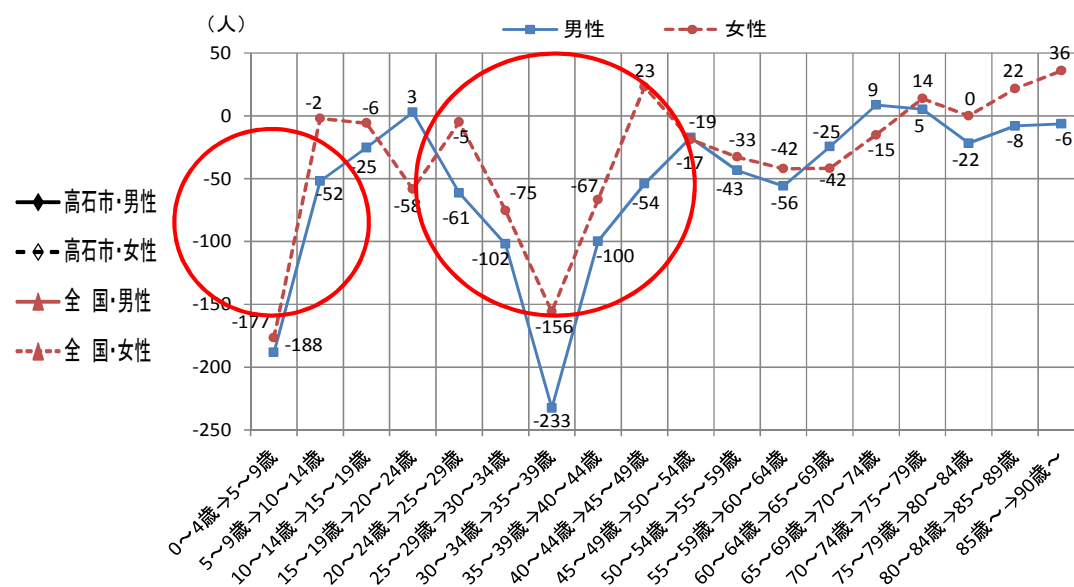
基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える ― ②方針 ―

生涯未婚率の推移



出典：「国勢調査」

性別・年齢階級別純移動数の状況
〔平成17（2005）年～平成22（2010）年〕



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

第2章 基本目標



基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える — ③数値目標 —

数値目標１：出生数 平成25年度：510人 ⇒ 平成31年度：700人
※住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査

数値目標２：20歳から39歳までの転出者数
平成26年度：1,222人 ⇒ 平成31年度：1,000人
※住民基本台帳人口移動報告

第2章 基本目標



基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える ― ④主な施策 ―

○ 子育てウェルカムステーションの整備

高石駅前のアプラたかいし3階の子ども遊び場スペースをリニューアルし、子育て世代の買い物の利便性の向上を図りつつ、併せて文化ホールや展示室に隣接する場所柄を活かした市外在住者を含む子育て世代をターゲットとした、高石市の魅力や不動産の紹介、空き家の紹介等を行うことで、子育て世代の定住・転入を促進します。あわせて、社会福祉法人、民間企業と連携し、子育て中の親子を支える子育て世代サポーター（ボランティア）を育成します。

KPI：アプラたかいし（複合施設）の入館者数

平成26年度：352,119人 ⇒ 平成31年度：430,000人

※延べ人数

子育てウェルカムステーション「HUGOOD（ハグッド）」

利用者数 平成31年度：40,000人 ※延べ人数

子育て世代サポーター（ボランティア）育成数

平成31年度：10人

※KPI（Key Performance Indicator）：重要業績評価指標。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標のこと。

第2章 基本目標



基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える — ④主な施策 —

○ 多子世帯支援

経済的な不安から子どもを増やすことにためらいのある方を支援するため、多子世帯支援として、保育料の多子減免制度の拡充を図ります。

K P I：多子世帯減免制度の適用者数

※制度設計後、K P Iを設定

○ 妊産婦検診支援の拡充

妊娠から出産までの経済的な負担を軽減するため、妊産婦検診の費用支援の拡充を図ります。

K P I：受診件数

平成26年度：5,303人 ⇒ 平成31年度：7,000人

※延べ人数

○ 不妊治療に関する支援

特定不妊治療に係る経費等について、大阪府の制度等を踏まえて支援します。

K P I：特定不妊治療費助成件数

平成31年度：60件

第2章 基本目標



基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える ― ④主な施策 ―

○ 子育て包括支援センターの創設による出産・子育ての切れ目ない支援

周産期の支援と子育て支援の一本化を図るため、子育て包括支援センターを創設し、妊娠・出産・子育てにおける切れ目のない支援を行います。特に出産後の不安や子育てに関する悩みなどに対応するため、母子健康センターと連携して、産後ケアの充実を図ります。

KPI：子育て支援センターの相談件数

平成26年度：465件 ⇒ 平成31年度：900件 ※延べ件数

乳児家庭訪問率

平成27年：96.2% ⇒ 平成31年：100%

○ 結婚への意識向上

未婚率の上昇に歯止めをかけるため、民間企業等と連携し、出会いの場の提供や結婚の意識向上に関する支援を行います。

KPI：婚姻率（人口千人あたり）

平成25年：4.9件 ⇒ 平成31年：5.6件

【各年度ごとの事業目標】 民間企業等と連携して実施する出会いの場の提供事業
参加者数 100人 ※平成29年度から平成31年度までの累積

第2章 基本目標



基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える ― ④主な施策 ―

○ 駅前保育ステーションの整備

大阪中心部への通勤需要を踏まえ、通勤時に子どもを預けやすい駅前保育ステーションを整備します。

KPI：駅前保育ステーションの利用者数

平成31年度：20人

○ 放課後児童クラブ（あおぞら児童会）の時間延長

仕事で帰宅時間が遅くなる保護者のニーズに対応するため、放課後児童クラブ（あおぞら児童会）の時間延長を行います。

KPI：放課後児童クラブ（あおぞら児童会）の利用者数

平成26年度：430人 ⇒ 平成31年度：609人

第2章 基本目標



基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整える — ④主な施策 —

○ 病児保育サービスの整備

働きながら子育てをする方が、できる限り仕事を休まないですむよう、これまで市内での提供がなかった病児保育サービスの整備を行います。

KPI：病児保育サービスの受入可能者数

平成31年度：940人 ※延べ人数

【基本目標（１） 子どもを産み育てやすい環境を整えるに関連する施策】

○ 子育て世帯への住宅支援（基本目標（４）記載事業）

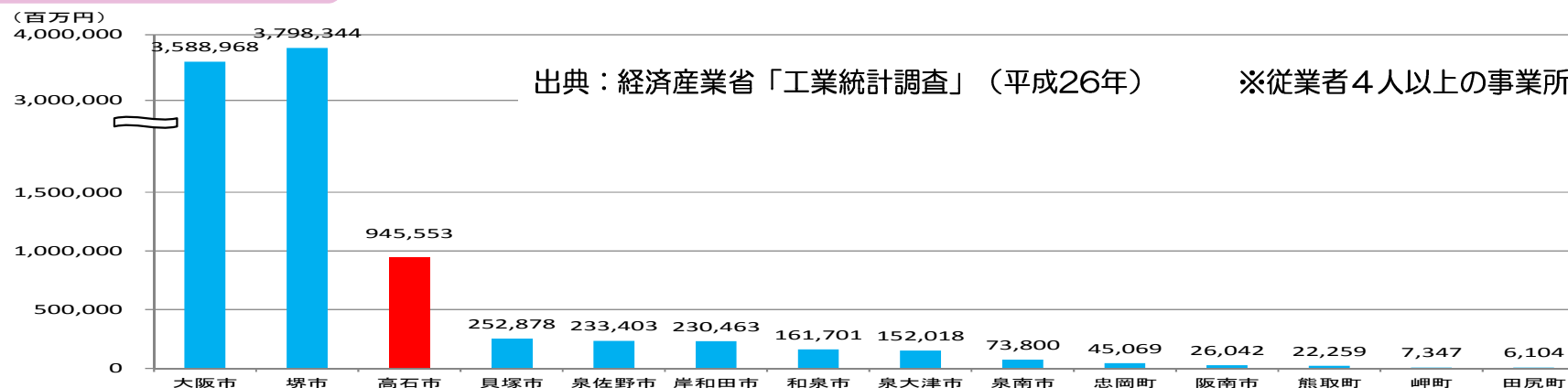
第2章 基本目標



基本目標（2） 働きやすい環境を整える ― ①現状 ―

- 高石市には、臨海部に大手企業を含む多くの企業が集積しています。市内企業従業員数は減少傾向にありますが、事業所向けアンケートでは、雇用の意向も見受けられます。

製造品出荷額等



従業者数

単位：人

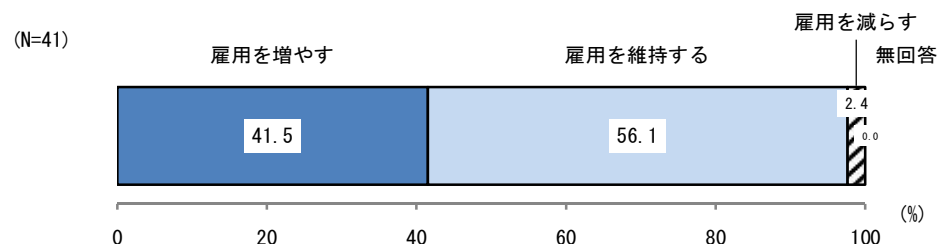
平成21年	平成24年
21,437	19,273

出典：平成24年経済センサス活動調査

企業の雇用計画

出典：総合戦略アンケート

今後の従業員の雇用計画についてどのような意向がありますか。（1つに○を）



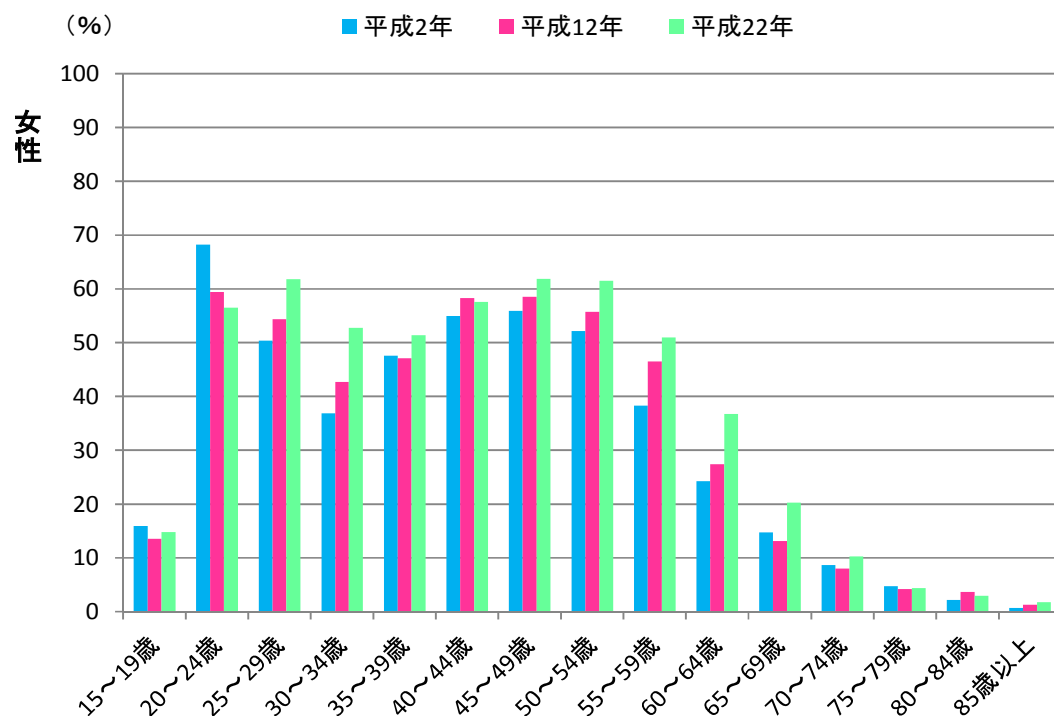
第2章 基本目標



基本目標（2） 働きやすい環境を整える ― ①現状 ―

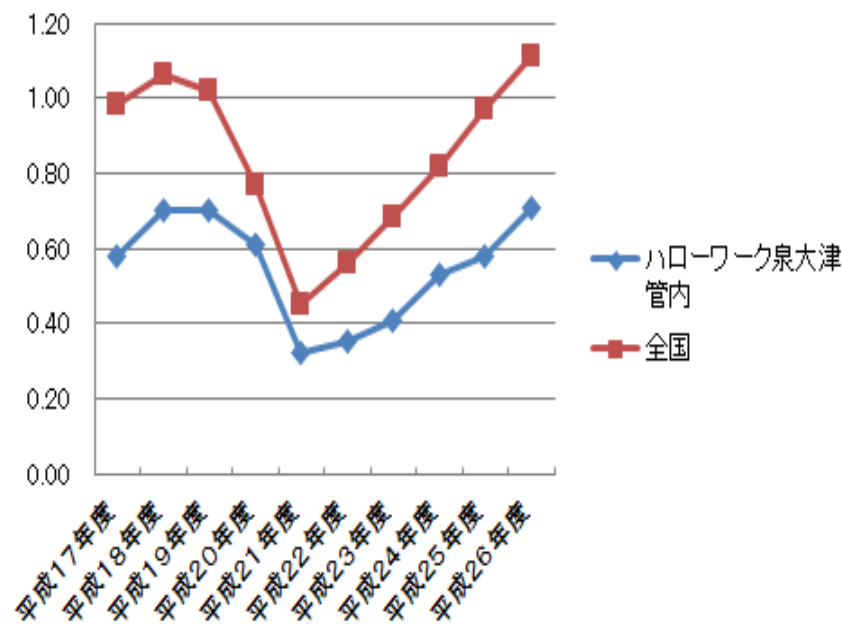
- 25歳以上の女性の就業率は年々上昇傾向にありますが、本市を含むハローワーク泉大津管内における有効求人倍率は、全国と比較しても低くなっています。

女性の年齢別就業率の推移



出典：総務省「国勢調査」

高石市を含むハローワーク泉大津管内の有効求人倍率の推移



出典：ハローワーク泉大津

第2章 基本目標

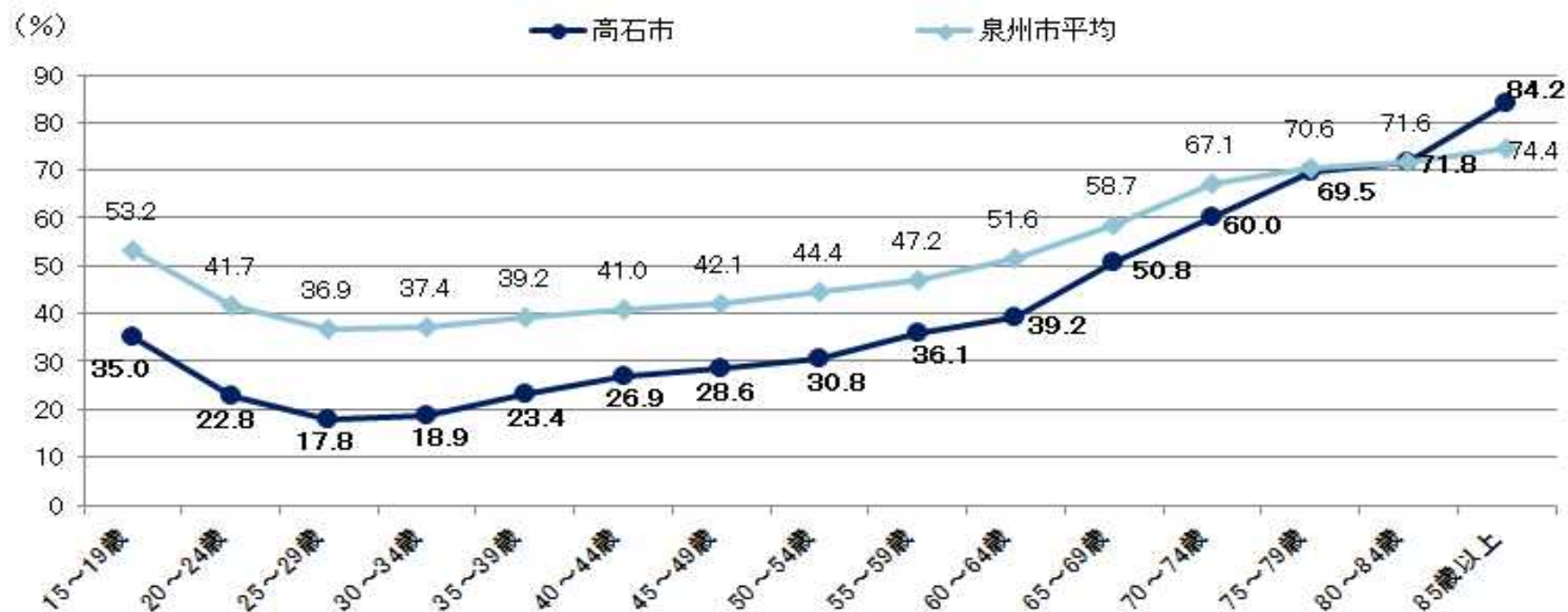


基本目標（2） 働きやすい環境を整える ― ①現状 ―

○ 臨海部を中心とした市内企業には、市外からも多くの方が通勤しています。

自市内従業者割合数（泉州市比較）

自市内就業者割合＝「自宅で就業」「自宅外の自市で就業」の計÷自市内在住の就業者の総数



出典：総務省「平成22年国勢調査」より作成

第2章 基本目標



基本目標（２） 働きやすい環境を整える ― ②方針 ―

○ 働きながら子育てができる環境を整備する

女性の就業率の向上を踏まえ、働きながら子育てができる環境を整備します。このため、多様なニーズに対応し、特に働きながら子育てをする親にとっての利便性を向上するための保育サービス等の充実を図ります。



第2章 基本目標



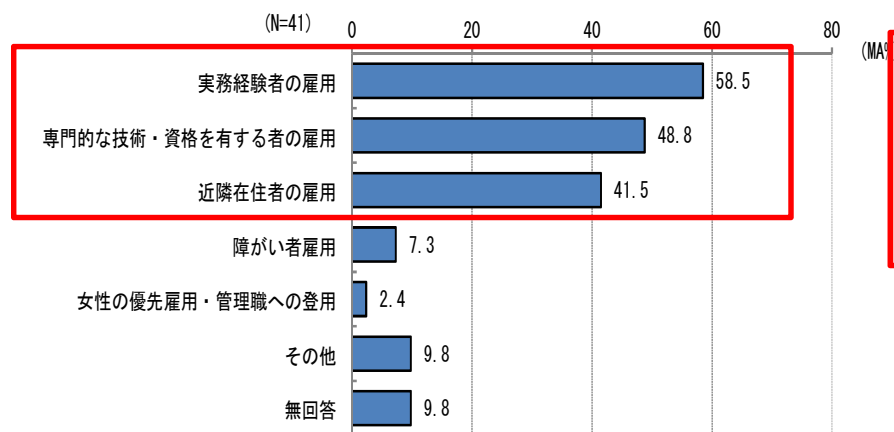
基本目標（2） 働きやすい環境を整える ― ②方針 ―

○ 就職しやすい環境を整える

就職機会の確保という観点から、求人ニーズとのマッチングができるよう、特に市内企業が求める人材の育成や、企業と就職希望者が接する機会の確保、市内企業の求人情報の紹介などの支援に取組みます。

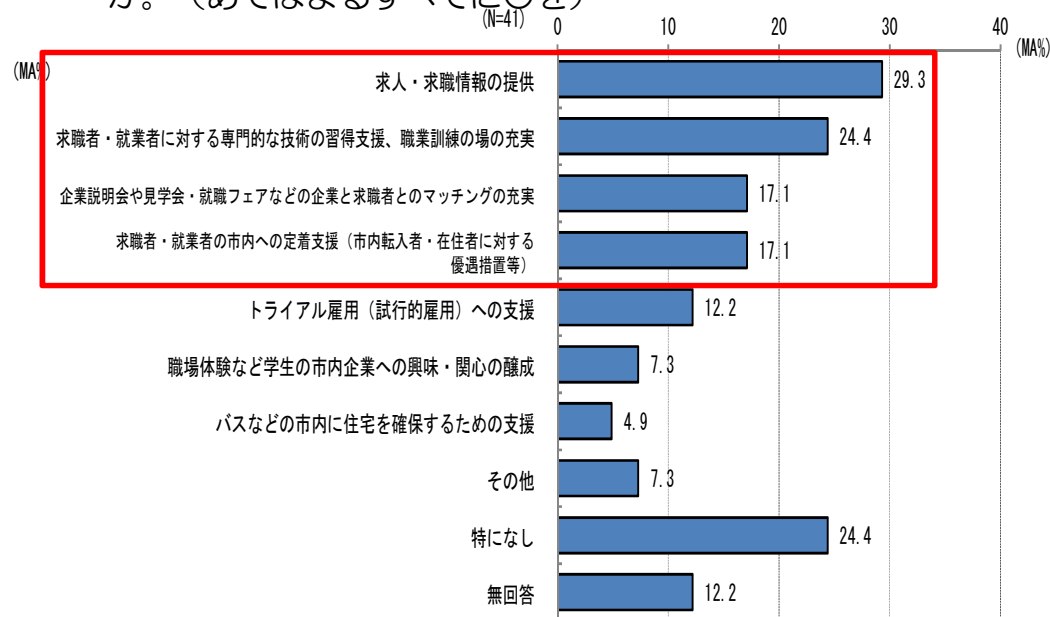
事業所向けアンケート結果

雇用施策として特に取組んでいることはありますか。（あてはまるすべてに○を）



出典：総合戦略アンケート

雇用を促進するため、行政にどのような支援を期待しますか。（あてはまるすべてに○を）



出典：総合戦略アンケート

第2章 基本目標



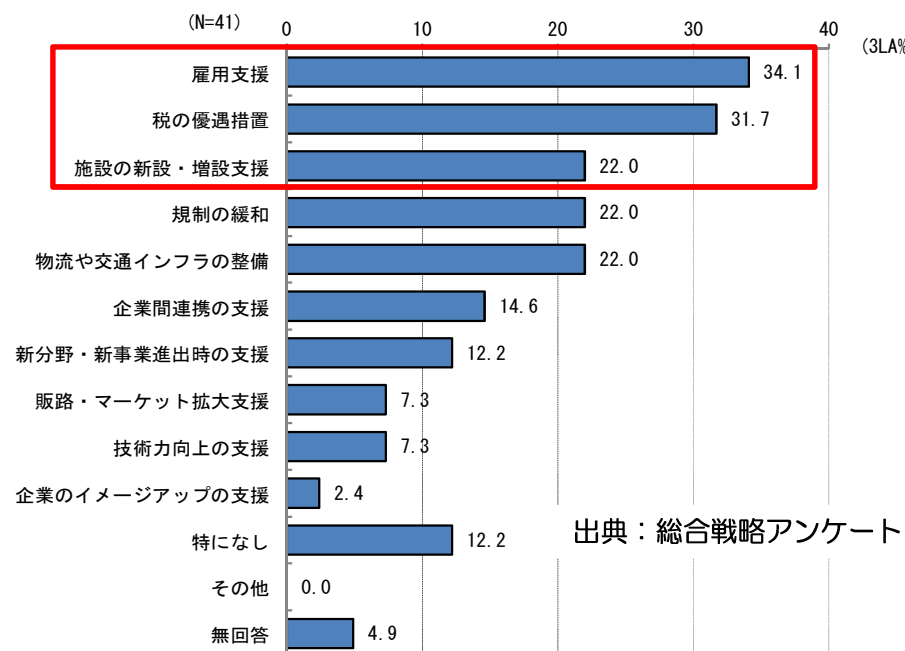
基本目標（２） 働きやすい環境を整える ― ②方針 ―

○ 市内企業の活性化を支援する

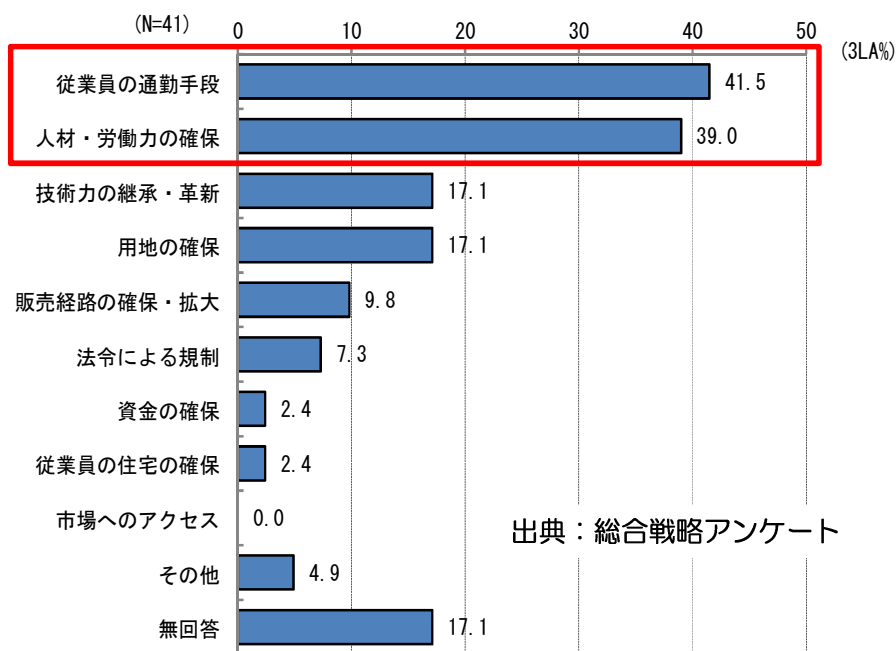
市内企業が活性化し、求人ニーズが増えるよう、生産性の向上やストックポイントの確保を目的とした設備投資に関する支援など、企業支援にも取り組みます。

事業所向けアンケート結果

貴事業所が事業活動を展開していくにあたり、行政にどのような支援策を期待しますか。（３つ以内に○を）



高石市で事業活動を展開するにあたり、課題と考えている点について、お答えください。（３つ以内に○を）



第2章 基本目標



基本目標（2） 働きやすい環境を整える — ③数値目標 —

数値目標1：市内就業者数 平成22年度：25,233人
⇒ 平成31年度：25,500人 ※国勢調査

数値目標2：市内企業従業者数 平成24年度：19,273人
⇒ 平成31年度：19,500人
※経済センサス活動調査

第2章 基本目標



基本目標（2） 働きやすい環境を整える ― ④主な施策 ―

○ 専門性を身につけるための資格取得支援

市内企業における実務経験者や専門的な技術・資格を有する者の雇用ニーズを踏まえ、就職に有利な資格取得等について支援を行います。

KPI：資格取得支援制度の利用者数
平成31年度：20人

○ 市内企業と就職希望者のマッチング支援

就職希望者と接する機会を求める市内企業のニーズを踏まえ、合同説明会、就職フェア等マッチングに関する支援を充実します。

KPI：合同説明会等を通じた就職者数 50人
※平成28年度から平成31年度までの累積
【各年度ごとの事業目標】 合同説明会等参加者数 300人
※平成29年度から平成31年度までの累積

第2章 基本目標



基本目標（2） 働きやすい環境を整える — ④主な施策 —

○ 企業立地等促進条例の充実

平成19年度に導入した高石市企業立地等促進条例に基づく税の軽減施策により、市内企業の設備投資が進み、製造品出荷額等の上昇に寄与していることなどを鑑み、平成28年度末で期限となる同条例の適用期間を延長するとともに、新設・拡充等の設備投資に関して、固定資産税の課税を2分の1軽減から3分の2軽減へ拡充します。

また、新設・拡充に伴う雇用者が市民の場合には、雇用奨励金を交付します。

K P I：企業立地等促進制度申請件数 20件

※平成29年度から平成31年度までの累積

企業立地等促進制度活用企業の新規雇用のうちの市民雇用数 10人

※平成29年度から平成31年度までの累積

第2章 基本目標



基本目標（2） 働きやすい環境を整える ― ④主な施策 ―

○ 創業支援

商工会議所や市内の金融機関、日本政策金融公庫等と連携し、市内で新規に創業する方への支援の充実を図ります。また、健幸づくりの取組を活かし、ヘルスケア産業を創出するため、高石市版健幸リビング・ラボを設置し、市民との協働での商品・サービス開発を支援します。

K P I : 創業件数 50件

※平成28年度から平成31年度までの累積

健幸のまちづくり事業から生まれた新規雇用者数 40人

※平成29年度から平成31年度までの累積

新規ヘルスケア商品・サービス創出数

平成31年度：5件

第2章 基本目標



基本目標（2） 働きやすい環境を整える ― ④主な施策 ―

○ 健康経営の促進

市の健幸づくり事業と民間企業の保健事業について協議の場を設け、連携を図ることにより、健康経営を促進します。

K P I：協議会参加団体数

平成31年度：100団体

※健康経営：

「企業が従業員の健康に配慮することによって、経営面においても大きな成果が期待できる」との基盤に立って、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践すること。

○ 人材バンクの創設

退職した高齢者の多様な生きがいづくりを進めるため、行政も含め専門人材を求める企業等とのマッチングを図る人材バンクを創設します。

K P I：人材バンク登録者と企業のマッチング数

平成31年度：10件

第2章 基本目標



基本目標（２） 働きやすい環境を整える — ④主な施策 —

【基本目標（２） 働きやすい環境を整えるに関連する施策】

- 駅前保育ステーションの整備（基本目標（１）記載事業）
- 放課後児童クラブの時間延長（基本目標（１）記載事業）
- 病児保育サービスの整備（基本目標（１）記載事業）
- 二・三世代同居・近居支援（基本目標（４）記載事業）
- 市内企業従業者への住宅支援（基本目標（４）記載事業）

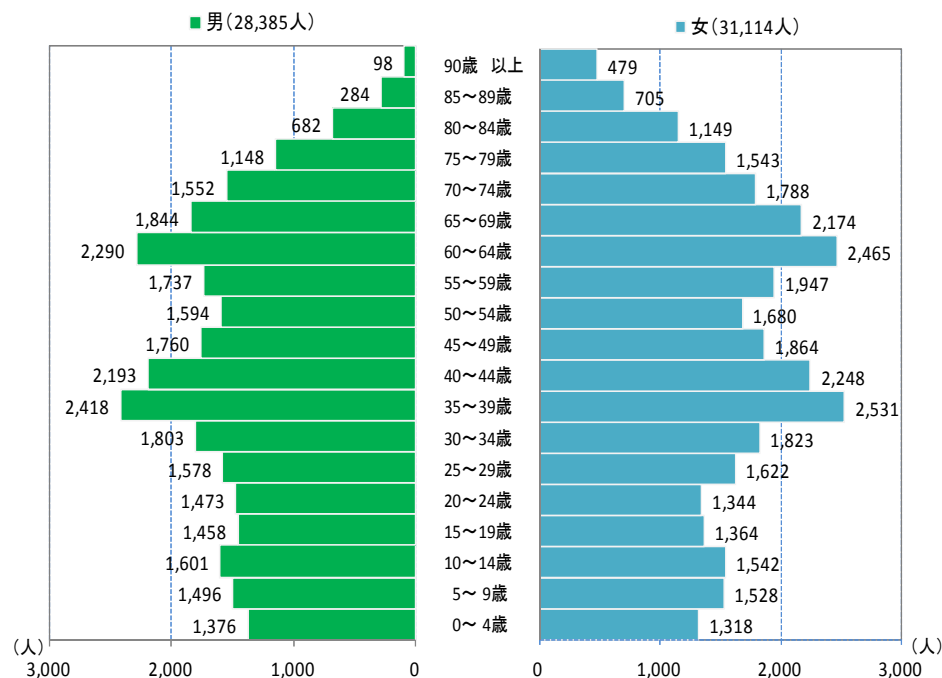
第2章 基本目標



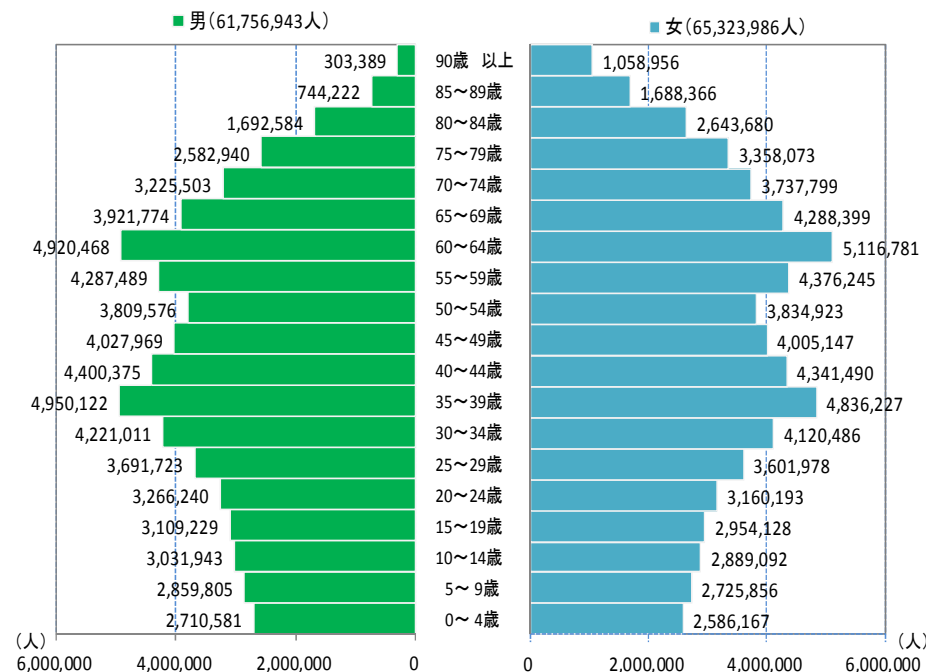
基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ①現状 －

○ 高石市の人口構造においても、団塊の世代や団塊ジュニア世代の層が厚く、近い将来に高齢者が急激に増加することが確実となっています。このため、高齢者が安心して住みよい生活ができるまちづくりが必要となります。

高石市の人口ピラミッド（平成22年）



全国の人口ピラミッド（平成22年）



出典：総務省「国勢調査」

第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ①現状 －

- 本市は地域活性化総合特区に位置づけられ、スマートウェルネスシティとして健幸づくりに係る取組みを進めてきており、健幸づくり教室、ウォーキング等の拠点が整備されてきています。



基本目標（３） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－①現状－

○ また、本市では、スマートウェルネスシティとして、都市基盤整備においても健幸づくりに主眼を置いた整備を進めてきており、南海中央線を2車線にし、自転車道やせせらぎによる「歩きたくなる」環境の整備などの取組みを行ってきています。



第2章 基本目標

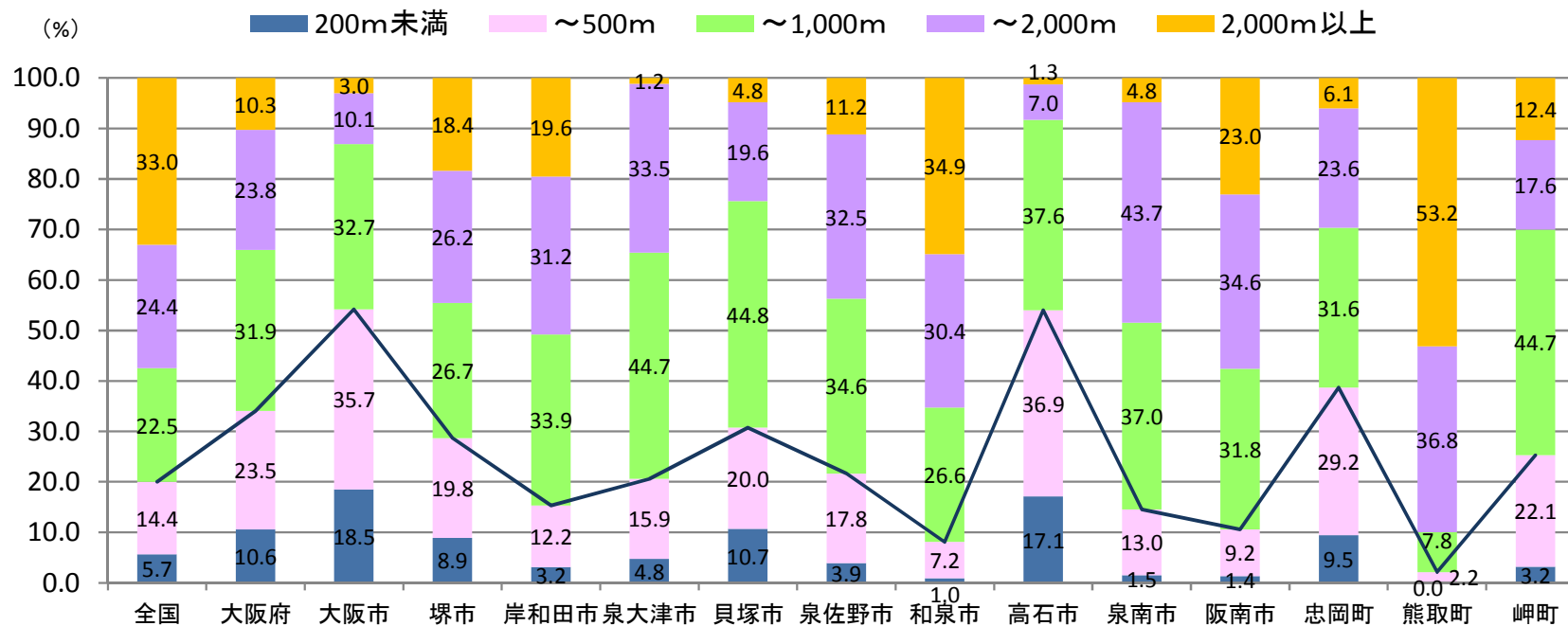


基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ①現状 －

- 転入者や転出者へのアンケートでは、居所を選んだ理由または重視した点として、「鉄道・バスなどの交通の利便性が良いこと」が最も高位となっています。高石市は市域に南海電鉄とJRの6つの鉄道駅を有し、国道26号など主要幹線道路が整備されているなど、南北の交通はかなり充実していることに比べると、東西の交通は充実の余地を残しているといえます。

最寄り駅までの距離（近隣市町比較）

— 500m未満の割合 — 出典：総務省「住宅・土地統計調査」（平成25年）



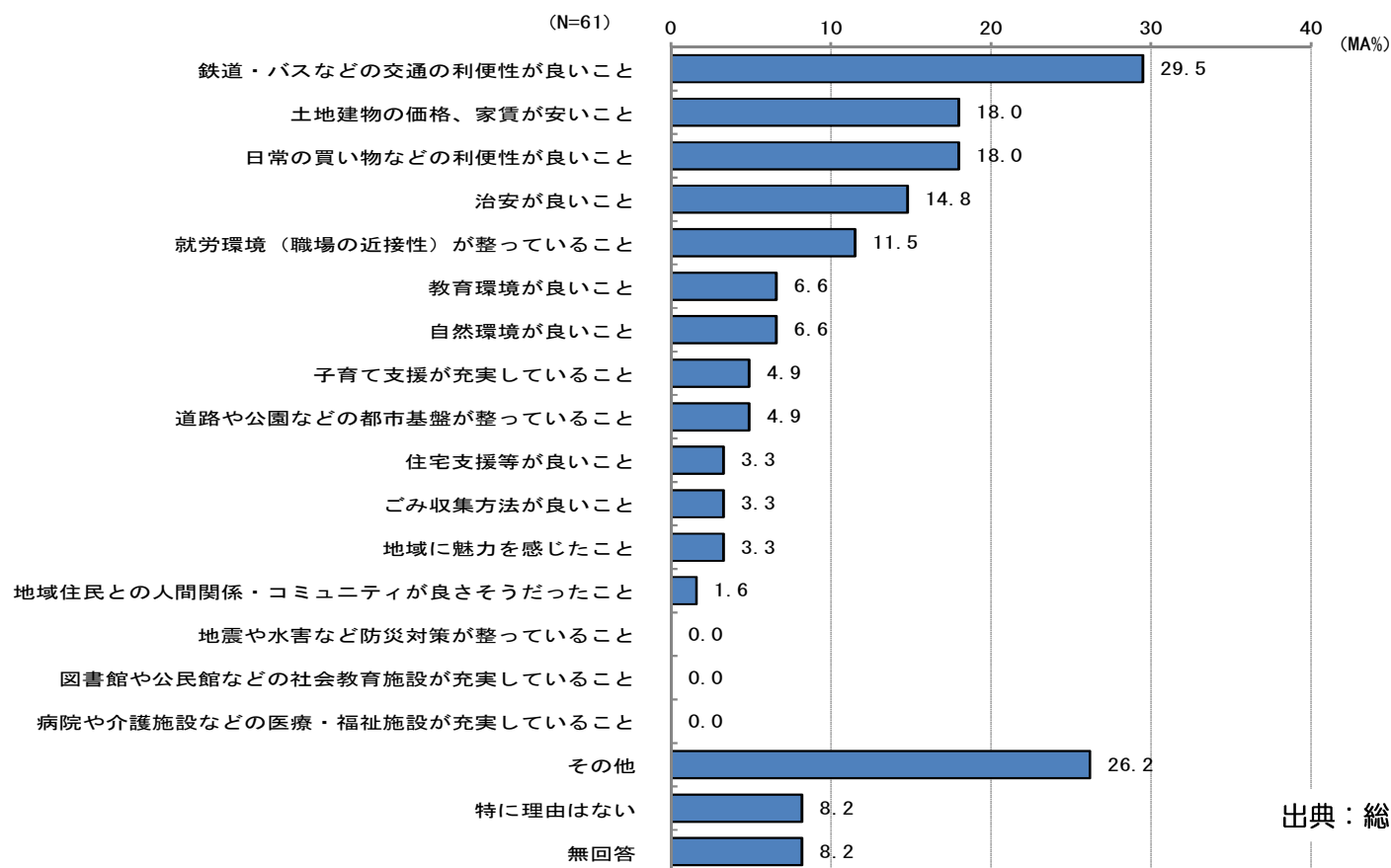
第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ①現状 －

転入者向けアンケートの結果

高石市への転入を選んだ理由や重視した点は何ですか。
（あてはまるすべてに○印）



出典：総合戦略アンケート

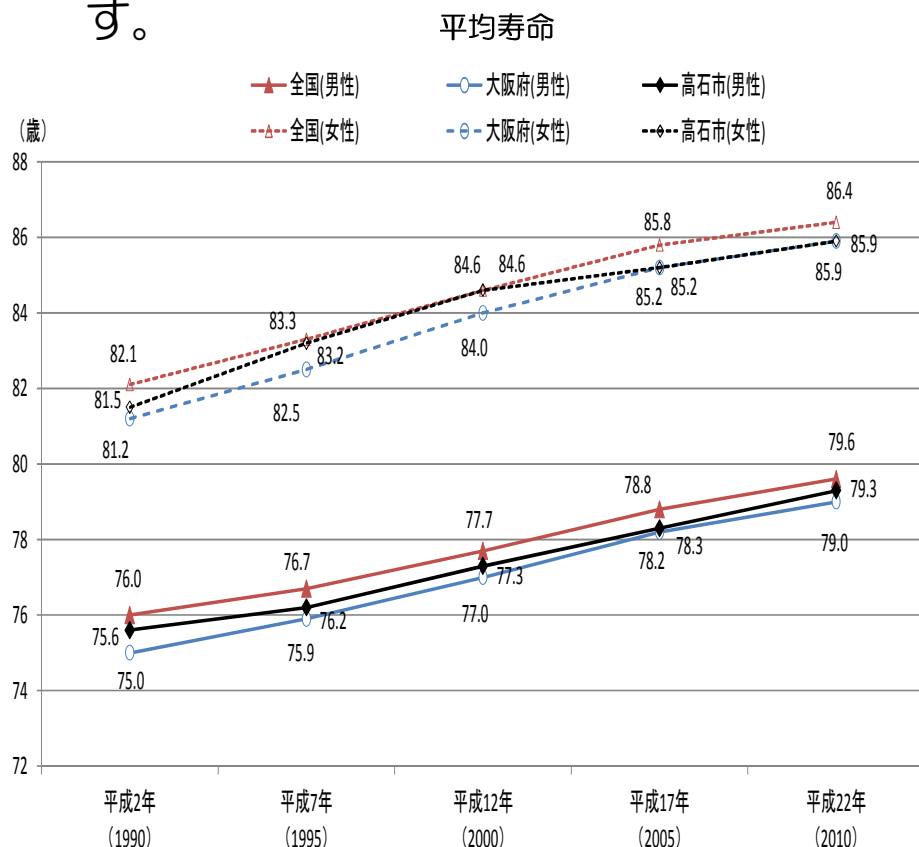
第2章 基本目標



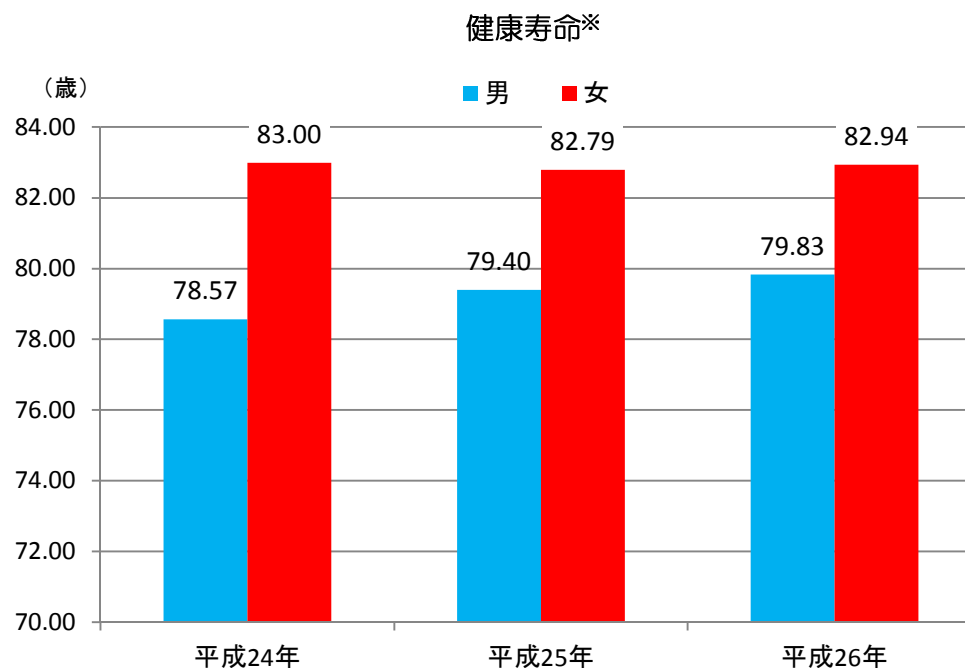
基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ②方針 －

○ いつまでも健幸で、高齢者が社会で活躍できるまちづくりを推進する

今後の高齢人口の増加や支え手となる生産年齢人口の減少を見据え、高齢者もできる限り長く社会の支え手として活躍し、互いに支え合うことのできる地域づくりを進めます。



出典：厚生労働省「生命表」、厚生統計協会



※健康な状態を「日常生活動作が自立していること」と規定し、介護保険の要介護度の要介護2～5を不健康な状態、それ以外を健康な状態という条件のもと算定したもの。

【参考出典】

平成24年度厚生労働科学研究費補助金

（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究費）による健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究班による「健康寿命の算定方法の指針」

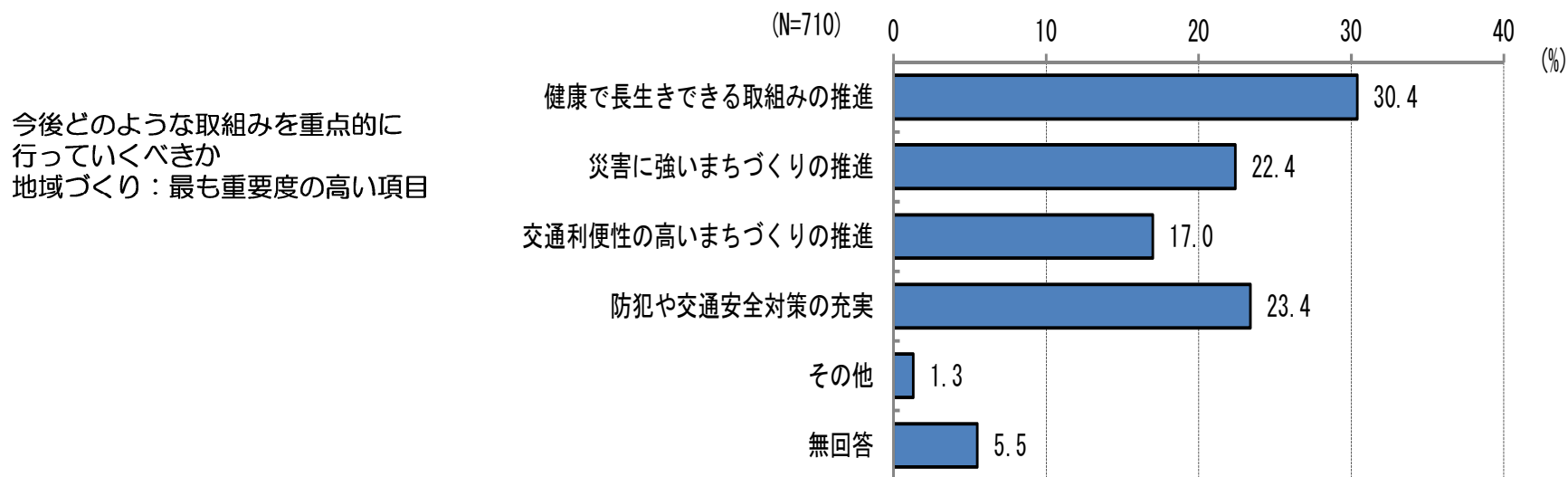
第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ②方針 －

○ 健幸づくりを推進する

高齢者がいつまでも元気で、健幸を維持しながら、様々な地域コミュニティを形成していくため、健幸づくり事業のさらなる充実・発展や、健幸づくりに資する総合型地域スポーツクラブの創設に向けた取組みを進めます。



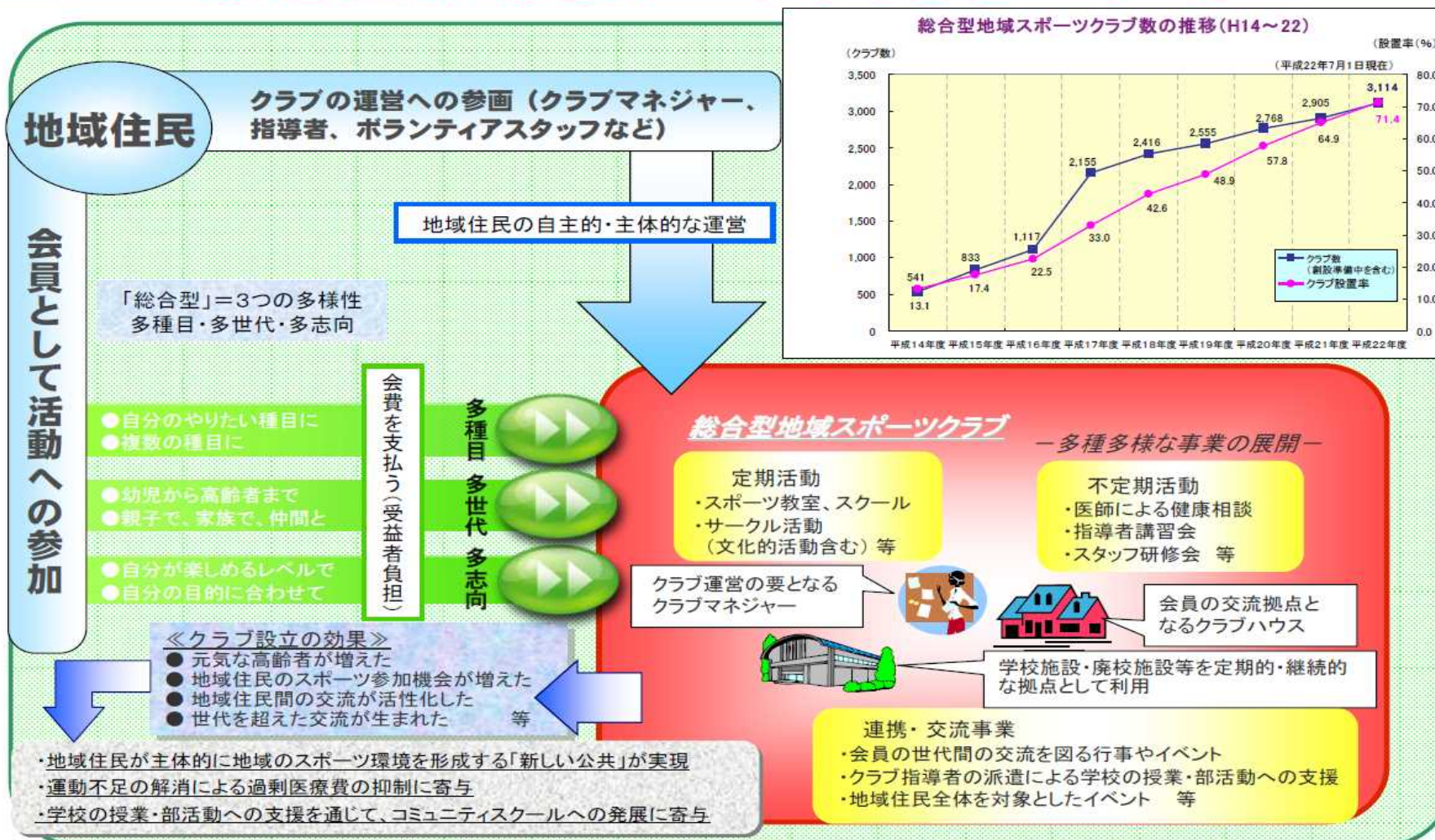
出典：総合戦略アンケート

第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ②方針 －

総合型地域スポーツクラブについて





基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ②方針 －

○ 高齢者が出かけやすいまちづくりを推進する

スマートウェルネスシティとしてのこれまでの取組みを踏まえつつ、今後さらに高齢化が進展しても高齢者が出かけやすいまちづくりを進め、まちの中心や駅周辺などの拠点に都市機能を集約させて、各拠点間を公共交通で結びつける「コンパクトシティ構想」と、鉄道沿線の自治体が連携し、それぞれのまちの強み・弱みを踏まえて役割分担することで、サービス水準の維持・向上を図る「沿線まちづくり構想」も勘案しながら、都市基盤整備や公共交通の充実を図ります。

第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ③数値目標 －

数値目標 1：健康寿命※

男性：平成26年度：79.83歳 ⇒ 平成31年度：81歳

女性：平成26年度：82.94歳 ⇒ 平成31年度：84歳

※健康な状態を「日常生活動作が自立していること」と規定し、介護保険の要介護度の要介護2～5を不健康な状態、それ以外を健康な状態という条件のもと算定したもの。

【参考出典】

平成24年度厚生労働科学研究費補助金

（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究費）による健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究班による「健康寿命の算定方法の指針」

第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ④主な施策 －

○ 健幸づくり事業の充実

高石市では、これまで地域活性化総合特区としてスマートウェルネスシティとしての取組みを先進的に行ってきています。健幸づくりの取組みに対する市民のニーズも高く、また、65歳以上の退職者がUターン、Jターンで転入する潜在的な需要を喚起するため、健幸づくり事業の取組みをさらに発展させ、地域包括ケアに係る取組みとの連携を図るなど、高齢者に魅力的なまちづくりを進めます。そのための手段として、民間企業との連携を図りつつ、健幸ポイント事業を本格実施します。

加えて、高石市版健幸リビング・ラボでの民間企業からのサービス提供を通じて、健幸づくりの取組や地域コミュニティの充実を図ります。

KPI：健幸ウォーキング参加者数

平成26年度：9,504人 ⇒ 平成31年度：45,000人 ※延べ人数

健幸づくり教室参加者数

平成26年度：1,330人 ⇒ 平成31年度：3,300人 ※延べ人数

健幸ポイント事業参加者数

平成27年度：1,700人 ⇒ 平成31年度：3,400人

第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ④主な施策 －

○ 総合型スポーツクラブの創設

高石市には、野球場やテニス場、また平成27年に新設した防災機能を備えた体育館など、様々な運動施設が豊富にあり、市民や競技スポーツ団体が活発に利用しています。平成32年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることを契機に、市民のスポーツに対する関心が高まり、併せて、楽しみながら健幸づくりができる機会の提供や、スポーツという新たな観点からの地域コミュニティの創出を目指して、幼児から高齢者まで様々な年代の方が、やりたい種目に、自分の楽しめるレベルで参加できる、多世代、多種目、多指向をコンセプトとした総合型スポーツクラブの設立を目指します。

KPI：総合型スポーツクラブ会員数
平成31年度：200人

第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）－ ④主な施策 －

○ 高齢者も暮らしやすいまちづくりの推進

市内に鉄道駅が6つあるなど公共交通機関が整備されている強みを活かして、高齢者も気軽に外出できるよう、コンパクトシティ＋ネットワーク構想を踏まえつつ交通利便性の向上を図ります。

KPI：福祉バスの乗客数

平成26年度：43,626人 ⇒ 平成31年：66,000人
※延べ人数

【基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（健幸・地域づくり）に関連する施策】

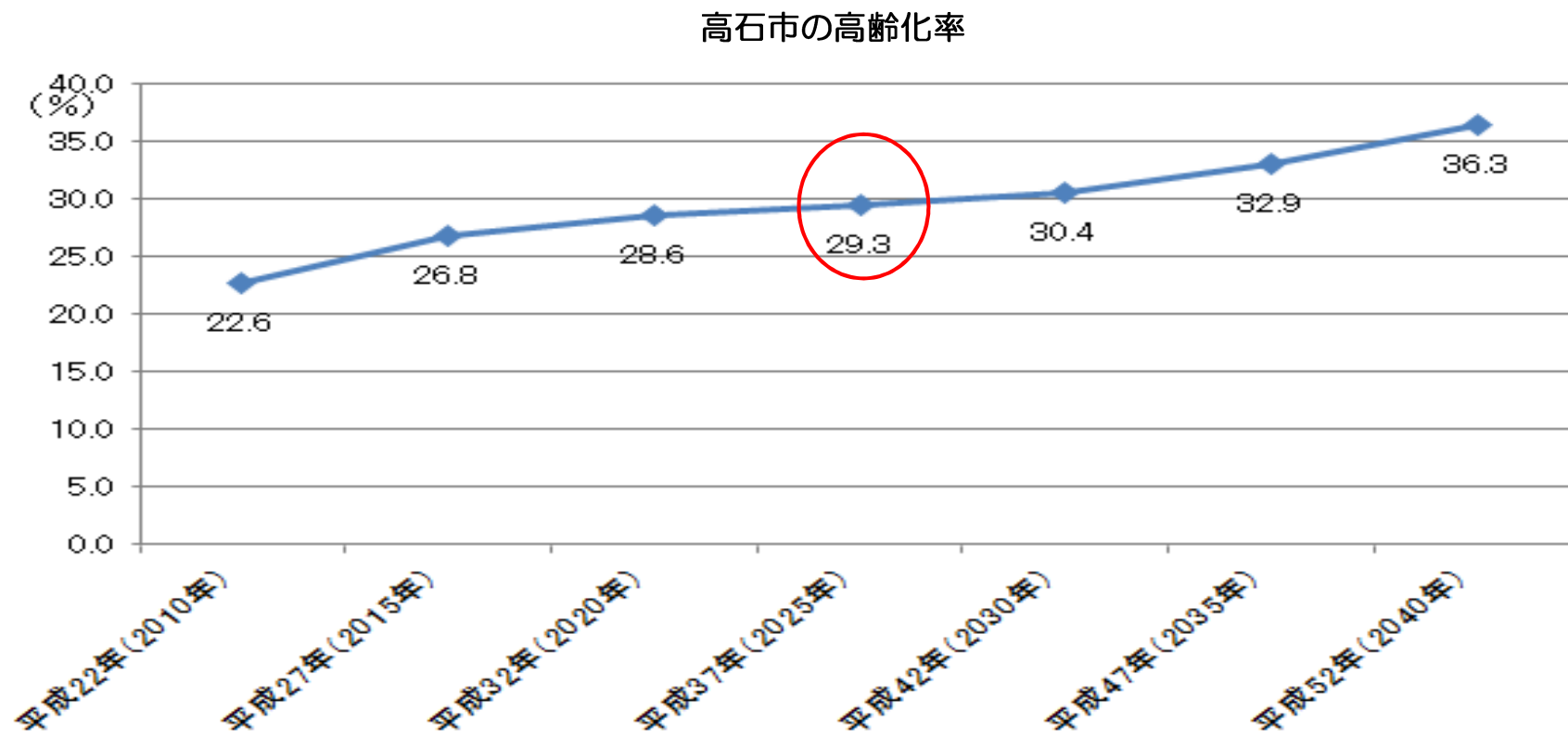
- 創業支援（基本目標（2）記載事業）
- 健康経営の促進（基本目標（2）記載事業）

第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－①現状－

- 高石市の高齢化率は平成26年度で25.4%ですが、医療介護の需要がピークに達するといわれる平成37年度には29.3%になることが見込まれています。



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所

第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ①現状 －

- 地域のコミュニティづくりのため、社会福祉協議会や自治会等と協働し、高齢者の方の居場所づくりや介護予防の拠点としてコミュニティカフェづくりの取組みを進めており、平成28年1月末現在で19カ所開設されています。しかし、新たな開設場所の確保や今後の運営の継続などの課題が残されています。



ちょっと寄って、おしゃべりしません
コミュニティカフェ
綾園7丁目

日時 3月12日(土)
午後1時30分から
場所 綾園7丁目自治会集会所

こんな催しがあるよ
・介護相談 ・座ってできる軽体操
お茶・菓子もあるよ♪

参加費：100円

賛助会費の助成金の一部を活用して運営を行っています

問い合わせ先
高石市社会福祉協議会
高石市加茂 4-1-1 261-3656
主管 綾園7丁目自治会

第2章 基本目標

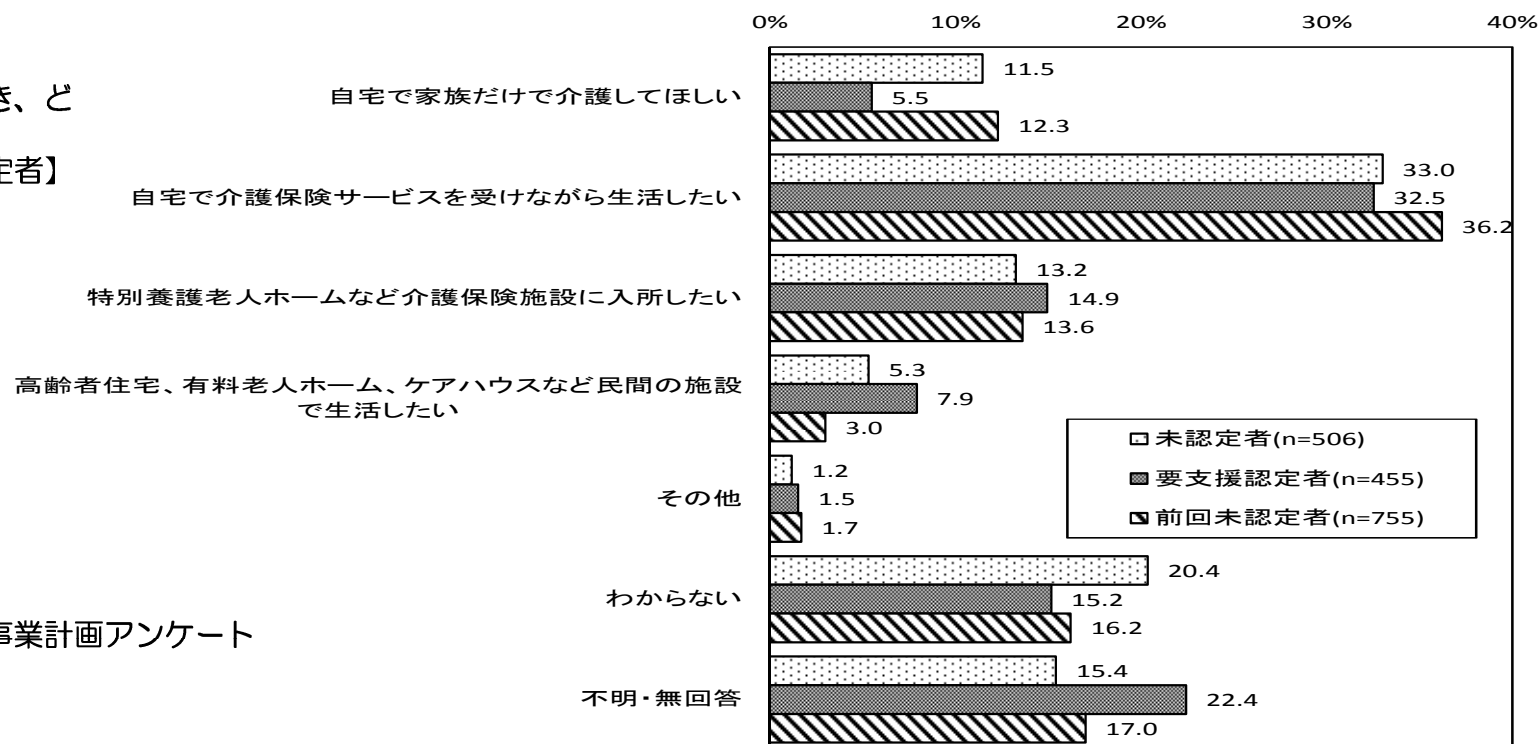


基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ②方針 －

○ いつまでも住み慣れた地域で暮らしていけるまちづくりを推進する

今後の更なる高齢化の進展に伴い、高齢者が安心して暮らせるよう、在宅医療の提供体制の充実や、在宅医療と介護の連携強化など、医療・介護・介護予防・すまい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケア体制の構築を進めます。

介護が必要になったとき、どこで生活したいか
【未認定者・要支援認定者】



出典：第6期介護保険事業計画アンケート

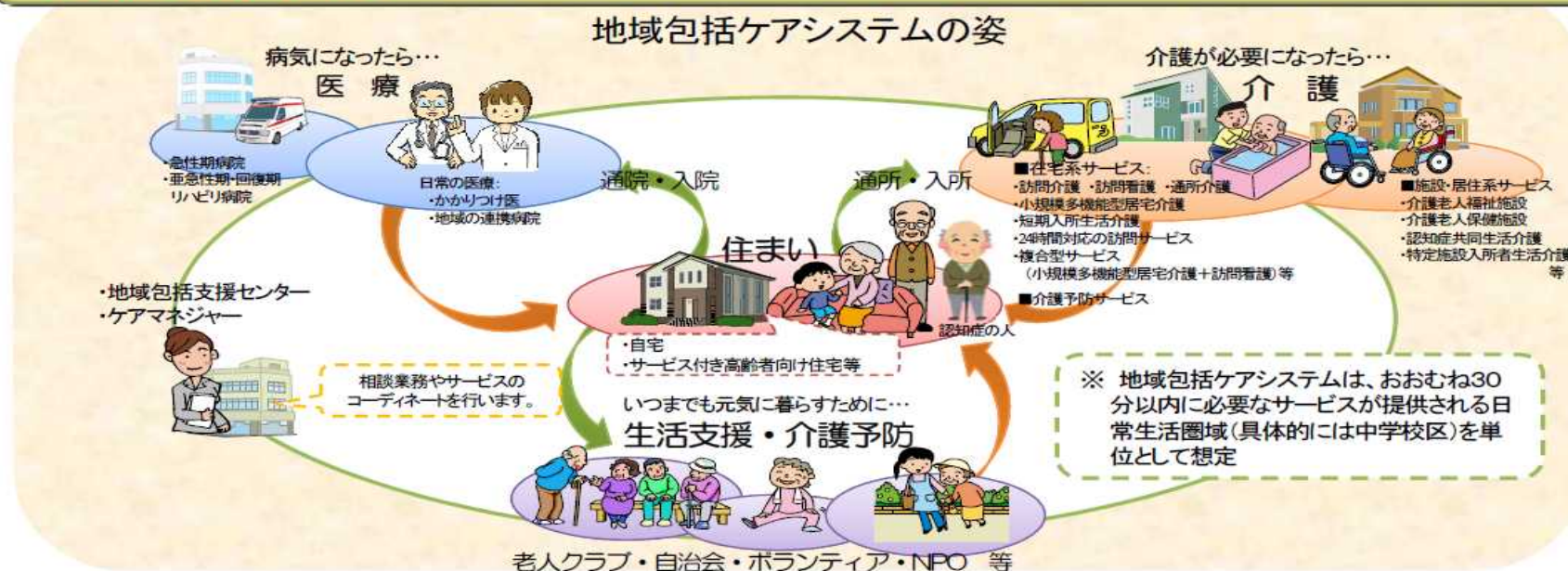
第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ②方針－

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
 - 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
 - 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。
- 地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**ことが必要です。



第2章 基本目標

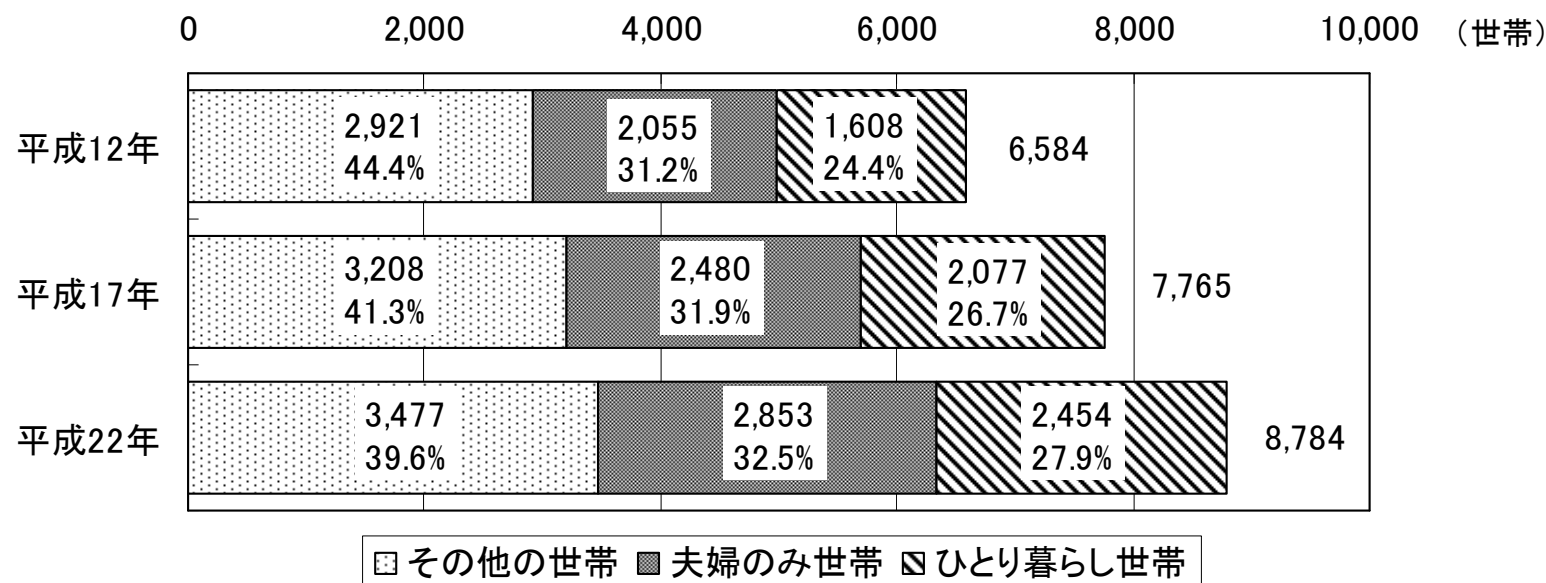


基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ②方針 －

○ 地域コミュニティに参加しやすいまちづくりを推進する

特に退職後の方など地域の高齢者が、気軽に集える居場所となるコミュニティカフェづくりについて、創業支援施策と一体となった拠点及び運営体制の形成や、近隣大学との連携、市内の退職高齢者のいきがづくりとしての活動の促進を図りつつ、人材の発掘・育成など運営体制の強化などの取組みを進めます。

ひとり暮らし及び夫婦のみ高齢者世帯の推移



第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ③数値目標 －

数値目標 1：医療・介護連携による連携数
平成31年度：260件

第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ④主な施策 －

○ 在宅医療介護体制の整備

いつまでも住み慣れた地域で生涯自分らしく暮らせるよう地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを行っていくことが必要です。医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護事業者などの協力も得ながら、勉強会、研修会等を通して、システム構築のための課題の解決を進め、在宅医療の提供体制の確保や関係者の連携を図っていきます。

K P I：医療・介護連携による連携数

平成31年度：260件

第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ④主な施策 －

○ コミュニティカフェの整備

今後のさらなる高齢化の進展を見据え、高齢者が気軽に集える居場所としての機能だけでなく、介護予防や見守り機能を有するコミュニティカフェの整備を進め、近隣大学等との連携や市内の退職高齢者の活動の促進を図りつつ、運営拠点の整備や運営体制の強化を図りながら市内すべての自治会での整備を目指します。また、創業型コミュニティカフェ事業を実施し、創業支援や空き家対策等と連携したコミュニティカフェの拠点の整備及び運営体制の強化を図ります。更に、創業型コミュニティカフェ事業の課題も踏まえ、既存事業者等とも連携したコミュニティカフェの整備を進めます。

KPI：自治会で実施するコミュニティカフェの件数

平成31年度：51件

子育て世代サポーター（ボランティア）の関わるコミュニティ
カフェの件数

平成31年度：10件

創業支援から自立したコミュニティカフェの件数

平成31年度：3件

第2章 基本目標



基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）－ ④主な施策 －

【基本目標（3） いつまでも健幸にすごせる環境を整える（地域包括ケア）に関連する施策】

- 人材バンクの創設（基本目標（2）記載事業）
- 二・三世代同居・近居支援（基本目標（4）記載事業）
- 教育機関との連携（基本目標（4）記載事業）

第2章 基本目標



基本目標（４） 住みたくなる環境を整える — ①現状 —

- 高石市では、スクールニューディールとして学校耐震化100%、学校のエアコンやＩＣＴ機器の整備、中学校給食、小学校１年生からの英語教育などを進めてきており、中学校卒業時に英検３級レベル３割以上合格を達成するなど、優れた教育環境が整っています。
- 一方で、全国学力・学習状況調査では、国語や算数など科目によっては大阪府平均や全国平均を下回っています。



第2章 基本目標



基本目標（4） 住みたくなる環境を整える — ①現状 —

外国語活動・英語教育の推進

【教育課程特例校】

平成25年度より、高石市立全小学校が文部科学省より教育課程特例校の認定を受け、小学校1年生から外国語活動の授業を実施。

【A L T（外国人英語指導助手）配置事業】

小・中学校において、コミュニケーション能力の育成を図るために、A L Tを配置。

【使える英語プロジェクト事業】

中学卒業時に英検3級レベル 3割以上を目標

全中学校で平成23年度より実施。

事業の効果検証を図り、改善・推進に活かすことを目的として、英語能力判定テストを平成26年度より実施。

英語能力判定テストの結果（中学校3校）

	5級レベル (中学1年)	3級レベル (中学3年)
平成26年度	48.5%	30.5%
平成27年度	49.3%	31.2%



第2章 基本目標



基本目標（４） 住みたくなる環境を整える — ①現状 —

- 高石市域周辺には、公立学校のほか、私立の教育機関もあり、文教都市たかいしとしての環境・特性を持っています。

主な教育機関

- ・ 高石高校
- ・ 羽衣学園
- ・ 清風南海学園
- ・ 羽衣国際大学
- ・ 南海福祉専門学校

等

主な文化施設

- ・ 市立図書館（郷土資料室）
- ・ たかいし市民文化会館
- ・ 高石市コミュニティセンター

等

第2章 基本目標



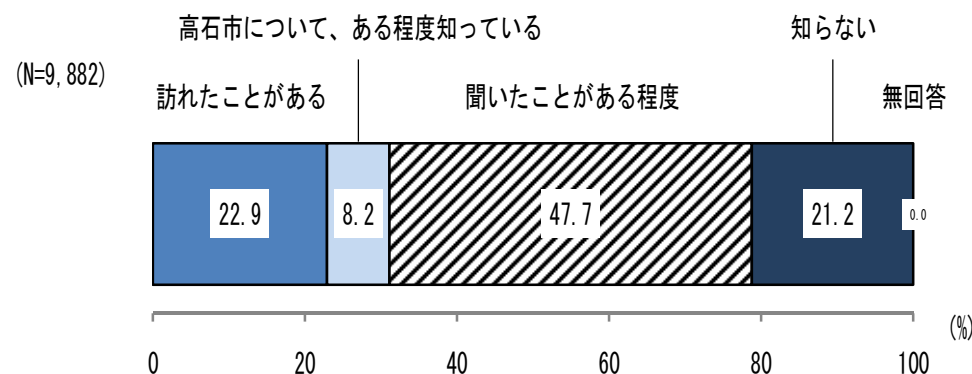
基本目標（４） 住みたくなる環境を整える ― ①現状 ―

- 近畿圏内のアンケートでは、高石市について、「聞いたことがある程度」または「知らない」と答えた方が68.9%となっており、また、大阪府内のアンケートでは55.1%となっているなど、市の認知度は低くなっています。

高石市の認知度

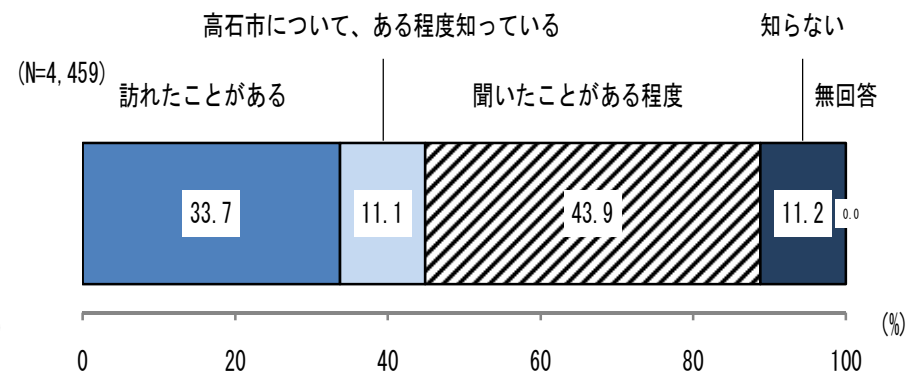
あなたは、大阪府の高石市について知っていますか。

近畿2府4県



大阪府内

出典：総合戦略アンケート



第2章 基本目標

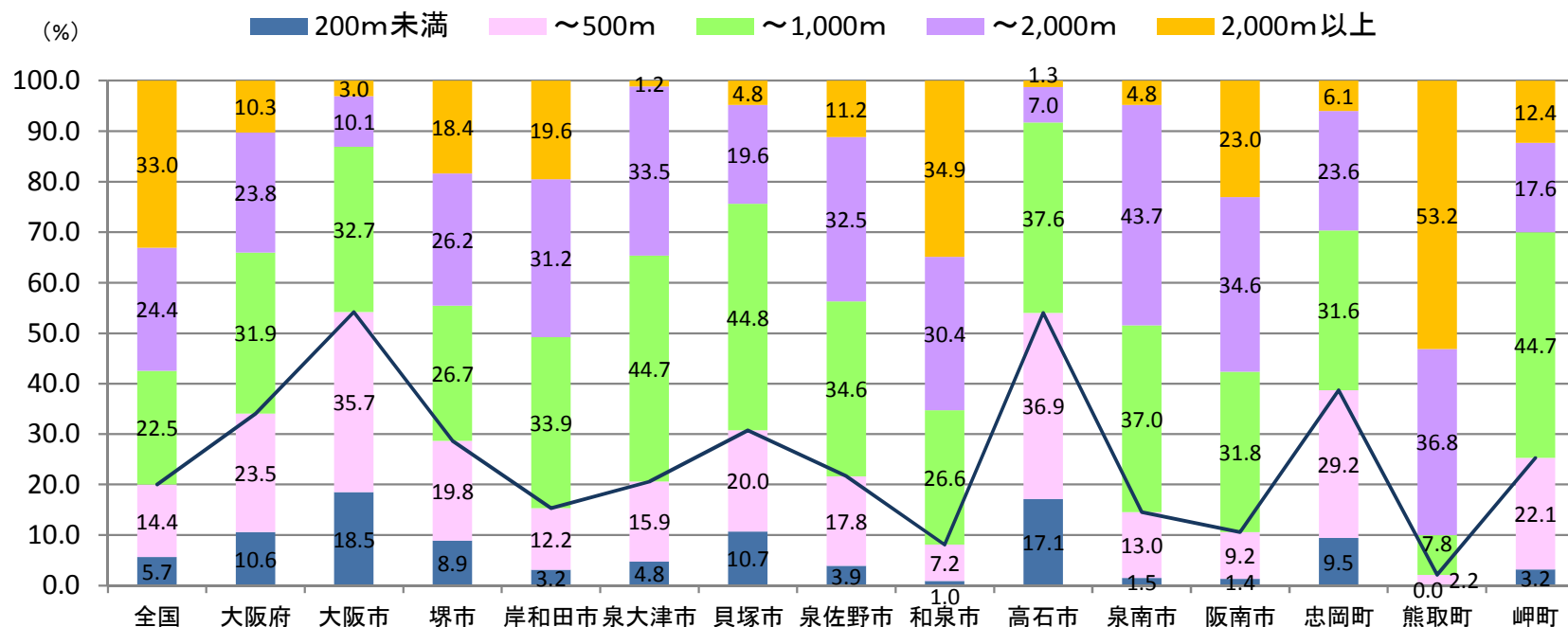


基本目標（４） 住みたくなる環境を整える ― ①現状 ―

○ 高石市は、コンパクトで平坦な地勢に鉄道駅が6つあるなど、鉄道網や主要幹線道路などの交通インフラが整い、鉄道交通の結節点となっている羽衣駅があるなど、大阪中心部や関西国際空港などへのアクセスが良好な環境となっています。

最寄り駅までの距離（泉州市町比較）

— 500m未満の割合



出典：総務省「住宅・土地統計調査」（平成25年）

第2章 基本目標

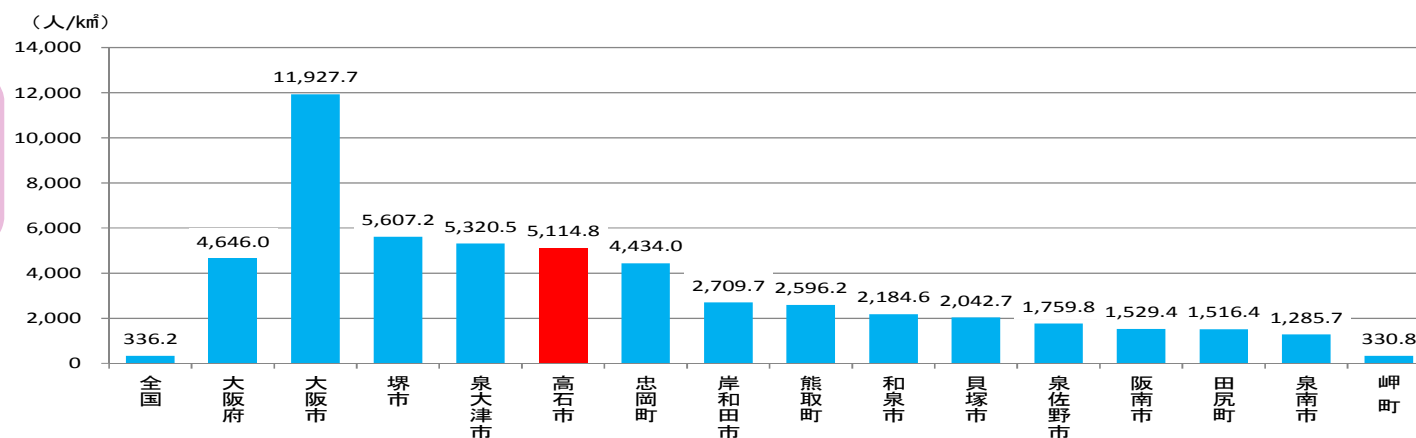


基本目標（4） 住みたくなる環境を整える ― ①現状 ―

○ 高石市は、利便性の高さなどから、他市と比べても人口密度が高く、地価額などが泉州市町と比較すると高くなっています。

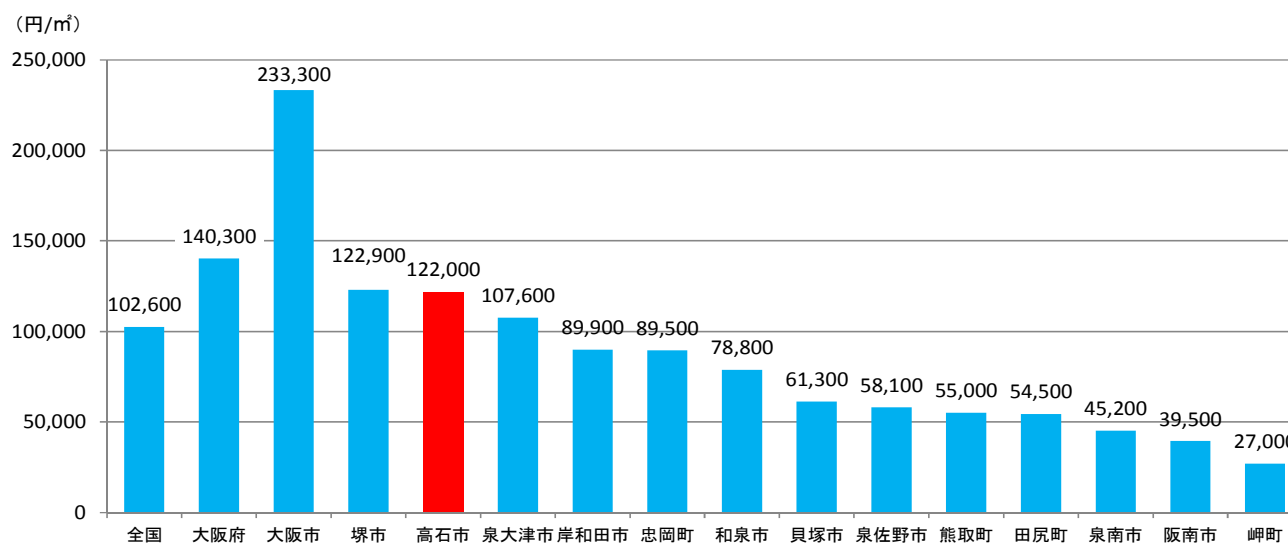
人口密度 （泉州市町比較）

出典：大阪府推計人口、国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」（平成26年10月1日現在）をもとに算出



地価額 （泉州市町比較）

出典：国土交通省「公示地価」（平成27年）



第2章 基本目標

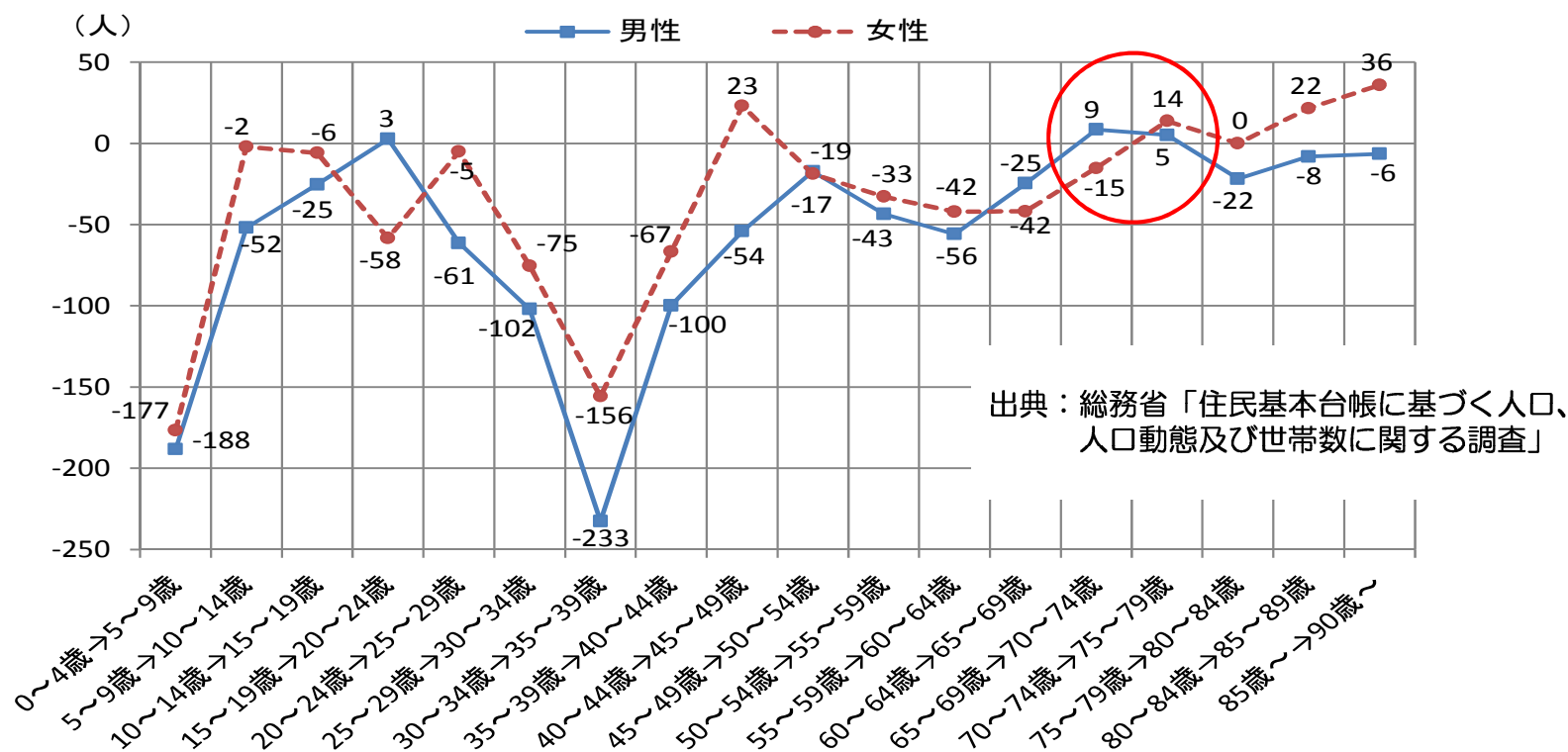


基本目標（４） 住みたくなる環境を整える ― ①現状 ―

- 子育て世代が転出超過となっている一方で、退職後の年代での転入の超過がみられ、ＵターンやＪターン等の一定の潜在的なニーズがあると考えられます。Ｕターン・Ｊターンの需要を喚起するために、高齢者の転入も視野に入れた環境の整備が必要と考えられます。

性別・年齢階級別純移動数の状況

〔平成17（2005）年～平成22（2010）年〕



第2章 基本目標

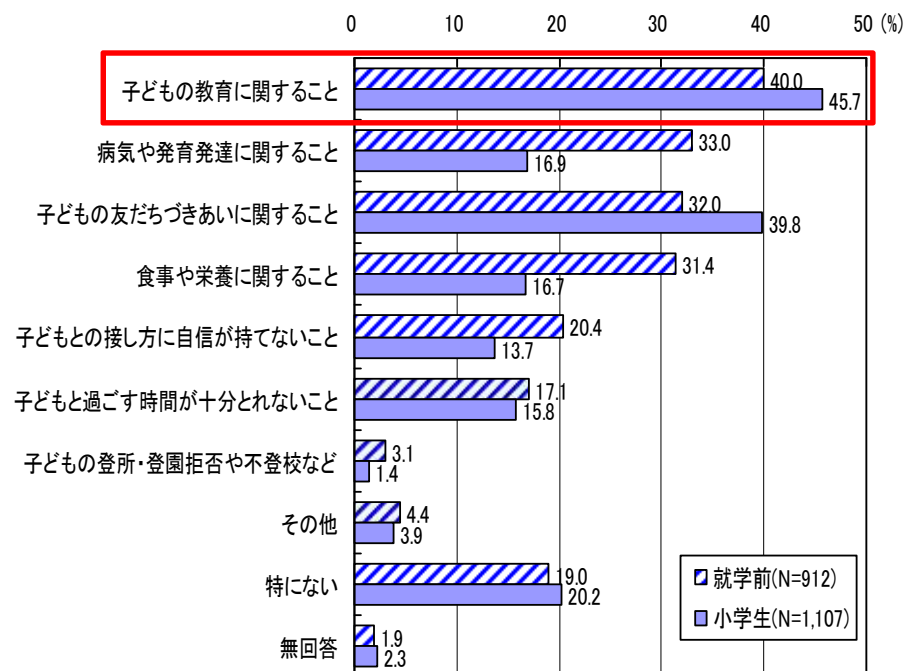


基本目標（４） 住みたくなる環境を整える ― ②方針 ―

○ 魅力ある教育を推進し、社会で活躍できる人材を育成する

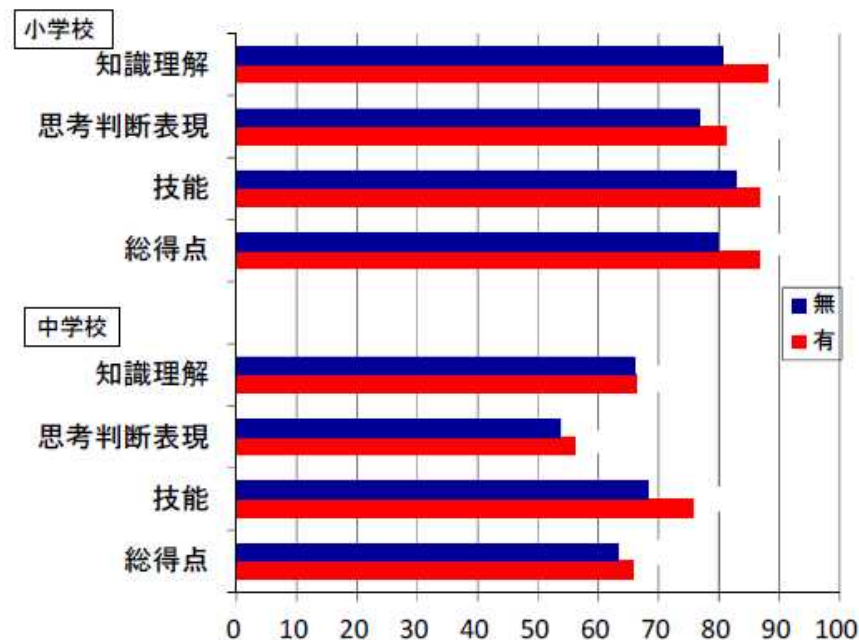
グローバル化する社会に対応できる子どもたちを育成するため、英語教育や教育のＩＣＴ化の充実を図るとともに、教育水準の向上に向けて取組みます。また、大学や高校など市内の教育機関と連携し、義務教育の充実を図るとともに、高齢者などへの生涯学習の機会の提供など、文教都市としての取組みを進めます。

子育ての悩みや気になること



出典：高石市子ども・子育て支援事業計画アンケート

タブレット端末を活用した授業後のテスト成績と活用しない授業のテスト成績を比較した結果



出典：文部科学省

第2章 基本目標



基本目標（４） 住みたくなる環境を整える ― ②方針 ―

○ 文教都市を始めとした魅力あるまちのPRを進める

高石市が、利便性の高い文教都市としての魅力のあるまちとして、広く認知されていくよう、子育て世代をターゲットの中心とした、ホームページなど情報発信手段の充実や、イベントでの効果的なPR、子育て支援施策と連携した移住・定住支援など、さらなる情報発信に取り組めます。さらに、関西国際空港を拠点としてインバウンド観光客も意識したブランド戦略を推進するなど広域的な取り組みを進めます。

羽衣国際大学



堺泉北臨海工業地帯の工場夜景



第2章 基本目標



基本目標（４） 住みたくなる環境を整える ― ②方針 ―

滞在人口の推移

休日の滞在人口数（平成26年）

滞在人口 / 都道府県内

（市区町村単位）



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 大阪府高石市 60,000人（56.0%）
- 2位 大阪府堺市西区 10,100人（9.4%）
- 3位 大阪府和泉市 7,000人（6.5%）
- 4位 大阪府泉大津市 6,800人（6.3%）
- 5位 大阪府岸和田市 2,800人（2.6%）
- 6位 大阪府堺市堺区 2,600人（2.4%）
- 7位 大阪府堺市南区 1,800人（1.6%）
- 8位 大阪府堺市北区 1,700人（1.5%）
- 9位 大阪府堺市中区 1,300人（1.2%）
- 10位 大阪府泉佐野市 700人（0.6%）
- その他 12,300人（11.4%）

滞在人口 / 都道府県外

（市区町村単位）



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 和歌山県和歌山市 700人（12.9%）
- 2位 兵庫県尼崎市 600人（11.1%）
- 3位 和歌山県紀の川市 400人（7.4%）
- 4位 和歌山県有田市 400人（7.4%）
- 5位 和歌山県橋本市 200人（3.7%）
- 6位 奈良県奈良市 200人（3.7%）
- 7位 青森県八戸市 100人（1.8%）
- 8位 兵庫県神戸市西区 100人（1.8%）
- 9位 和歌山県那智勝浦町 100人（1.8%）
- 10位 兵庫県神戸市中央区 100人（1.8%）
- その他 2,500人（46.2%）

泉州地域の観光宿泊客数



出典：大阪府観光宿泊統計

出典：内閣官房まち・ひと・しごと創生本部「RESAS」
※滞在人口とは、市区町村単位で滞在時間が2時間以上の人口

第2章 基本目標

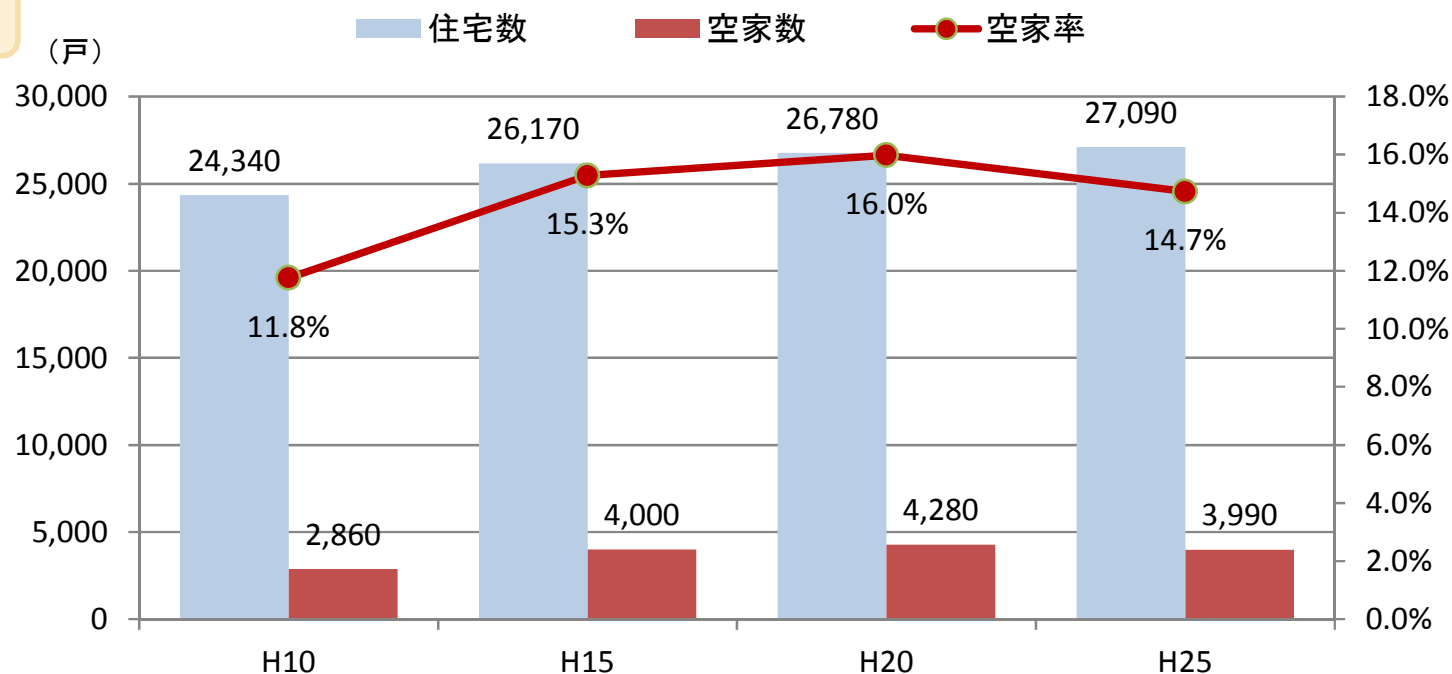


基本目標（4） 住みたくなる環境を整える ― ②方針 ―

○ 住みたい人が住んでもらえる環境をつくる

高石市は、他市と比べても人口密度が高いことを踏まえ、空き家の利活用に関する取り組みを進めるとともに、二・三世代同居近居支援など住宅支援制度の充実を図り、不動産情報を効果的に提供するなど、移住・定住のニーズを充足するための支援をしていきます。

空き家の推移



出典：総務省「住宅・土地統計調査」

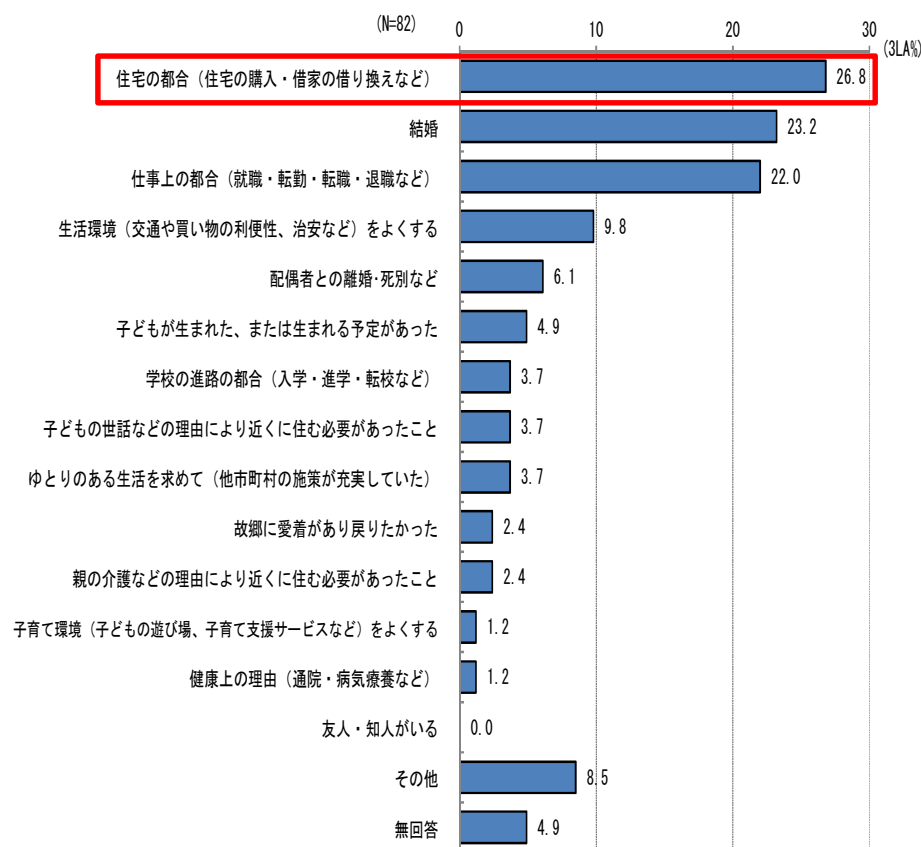
第2章 基本目標



基本目標（４） 住みたくなる環境を整える ― ②方針 ―

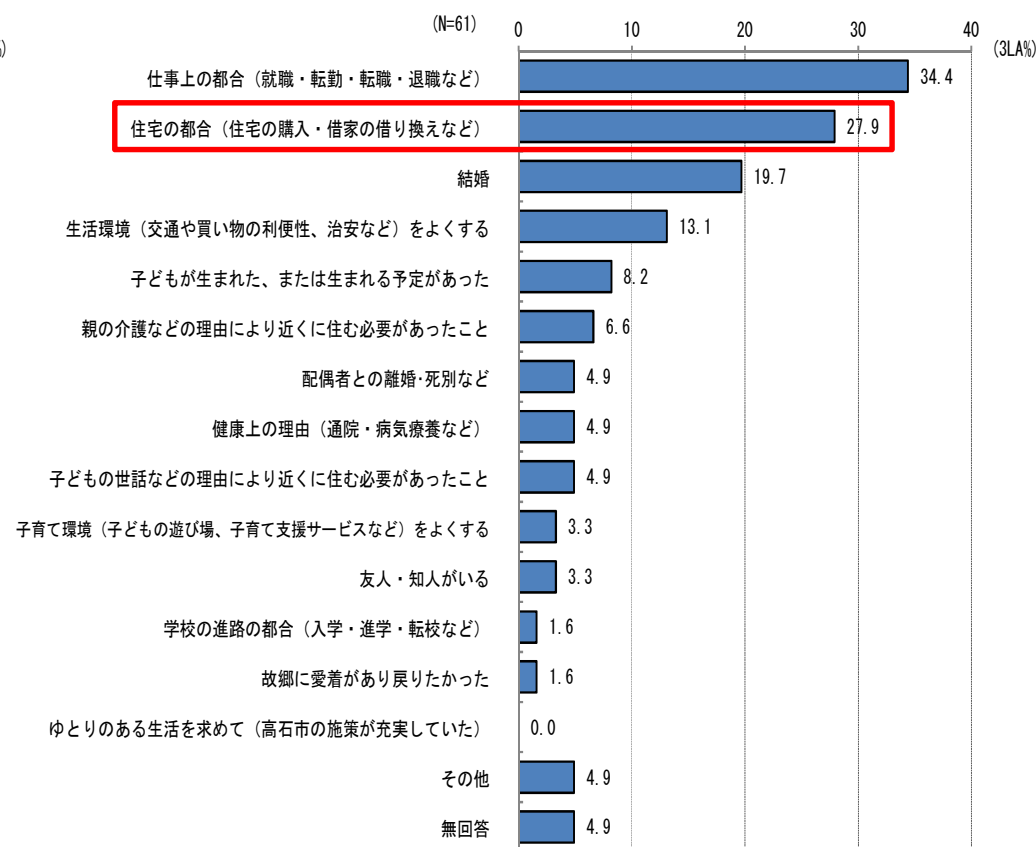
転出・転入者向けアンケートの結果

「あなたが高石市から転出することになった理由またはきっかけは何ですか。（3つまで〇印）」



出典：総合戦略アンケート

「あなたが高石市に転入した理由またはきっかけは何ですか。（3つまで〇印）」



出典：総合戦略アンケート

第2章 基本目標



基本目標（4） 住みたくなる環境を整える — ③数値目標 —

数値目標 1：20歳から39歳までの転入者数

平成26年度：1,051人 ⇒ 平成31年度：1,250人

※住民基本台帳人口移動報告

数値目標 2：60歳以上の転入者数

平成26年度：164人 ⇒ 平成31年度：250人

※住民基本台帳人口移動報告

第2章 基本目標



基本目標（４） 住みたくなる環境を整える — ④主な施策 —

○ 教育のＩＣＴ化の推進

情報化時代に育つ子どもたちに、社会に出た時に役立つ教育を行うため、ＩＣＴを活用した教育の推進を図ります。

KPI：タブレットを活用した授業時間

小学校 平成31年度：週5時間／クラスごと

中学校 平成31年度：週3時間／クラスごと

※ＩＣＴ（Information and Communication Technology）：
情報通信技術のこと。

○ 少人数教育の促進

生徒一人ひとりにきめ細やかな教育を行えるよう、少人数教育の取組みを進めます。

KPI：全国学力・学習状況調査の点数

平成31年度までに大阪府平均を上回る

【各年度ごとの事業目標】全国学力・学習状況調査の質問紙調査のうち、
「授業の内容が良くわかる」と回答した割合 80%

第2章 基本目標



基本目標（4） 住みたくなる環境を整える — ④主な施策 —

○ 英語教育の推進

教育課程特例校の指定を受け、使える英語プロジェクト事業など独自の英語教育を展開してきた実績を生かし、今後、ますますグローバル化が進んでいく社会で活躍できる人材の育成を図ります。

KPI：英語能力判定テスト3級レベル（中学3年生）

平成26年度：30.5% ⇒ 平成31年度：40.0%

○ 教育機関との連携

大学、高等学校、専門学校などの教育機関に恵まれた環境を活かし、小中学校教育への協力を得るなど、教育の場での世代間交流を図ります。

KPI：大学生のインターンシップ等受入数

平成31年度：50人

第2章 基本目標



基本目標（４） 住みたくなる環境を整える — ④主な施策 —

○ 地域活性化ブランド戦略による魅力の発信・発掘の強化

市の知名度を向上させるため、ホームページのリニューアルや大阪中心部での広告掲示等を通して、特に子育て世代を中心としたPRを図ります。

KPI：高石市ホームページ閲覧数

平成26年度：43,700件 ⇒ 平成31年度：70,000件

※トップページ月平均

○ 関西国際空港を拠点とした広域的なPRの取組みの推進

関西国際空港を拠点とした泉州9市4町による広域的な取組みとして、一般社団法人KIX泉州ツーリズムビューローに参画し、インバウンド観光客も意識したPR等を進めるとともに、交流人口の増加を図ります。

※一般社団法人KIX泉州ツーリズムビューロー：泉州9市4町が中心となり、官民一体となって、地域の観光産業の成長を図ために設立された一般社団法人。

KPI：市内宿泊者数

平成26年度：27,500人 ⇒ 平成31年度：115,000人 ※延べ人数

第2章 基本目標



基本目標（４） 住みたくなる環境を整える — ④主な施策 —

○ 旧市民会館・図書館の活用

旧市民会館・図書館を活用し、地域活性化に資する魅力ある施設を民間資金により、公募で設置します。

KPI：設置施設の内容が固まり次第設定

第2章 基本目標



基本目標（４） 住みたくなる環境を整える — ④主な施策 —

○ 空き家バンク制度の利用促進

増加する市内の空き家の不動産資源としての活用を促進するため、平成27年10月に創設した空き家バンク制度の利用促進を図ります。具体的には、空き家への入居者に対する転居費用等の補助制度の創設や解体費用の補助、市内の金融機関などと連携した低利率の融資制度を創設するなどの支援を行います。

KPI：空き家バンクでの契約成立件数
平成31年度：20件

○ 二・三世代同居近居支援

住宅の新設又は購入に関して、「二・三世代同居等支援」の観点から、固定資産税の軽減措置を行っていますが、市内の金融機関と連携し、低利率の融資制度を創設します。

KPI：固定資産税の軽減措置制度利用者数
平成31年度：70人

第2章 基本目標



基本目標（4） 住みたくなる環境を整える — ④主な施策 —

○ 子育て世帯への住宅支援

住宅の新設又は購入に関して、「子育て世帯の定住促進」の観点から、固定資産税の軽減措置を行います。

K P I：固定資産税の軽減措置制度利用者数

平成31年度：90人

○ 市内企業従業者への住宅支援

住宅の新設又は購入に関して、「市内企業従業者への住宅支援」の観点から、固定資産税の軽減措置を行います。

K P I：固定資産税の軽減措置制度利用者数

平成31年度：20人

第2章 基本目標



基本目標（４） 住みたくなる環境を整える ― ④主な施策 ―

○ 安全・安心なまちづくりの推進

① 交通安全対策の推進

鉄道の高架化や南海中央線の整備、交通安全施設の設置等により、渋滞緩和や交通安全の充実を図ります。

KPI：交通事故発生件数

平成26年度：278件 ⇒ 平成31年度：250件

【各年度ごとの事業目標】交通安全講習 参加者数 10,000人

※平成29年度から平成31年度までの累積

交通安全施設（自転車レーン）の延伸 1500m

※平成29年度から平成31年度までの累積

② 防災・減災対策の推進

防災・減災対策として、津波浸水区域内外など地域の特性に応じた訓練を継続し、さらに多種多様な訓練の実施、推奨、支援を進めます。

KPI：訓練の種類

平成29年度から平成31年度まで：毎年度、多様な災害や場面に応じた新たな訓練を実施

第2章 基本目標



基本目標（４） 住みたくなる環境を整える — ④主な施策 —

③ 防犯対策の推進

警察や防犯協会との連携により、地域防犯力の充実を図ります。

KPI：防犯カメラの設置台数

平成26年度：38台 ⇒ 平成31年度：98台

KPI：小学生のICタグ所持率

平成26年度：75% ⇒ 平成31年度：100%

【各年度ごとの事業目標】青色回転灯防犯パトロール参加人数 180人 ※延べ人数

【基本目標（４） 住みたくなる環境を整えるに関連する施策】

○ 子育て世代ウェルカムステーションの整備（基本目標（１）記載事業）

履歴

平成28年3月 策定
平成30年3月 第2版